

TDC 通信パッケージ 操作マニュアル

株式会社トヨタシステムズ

第 1.2.0 版 2022 年 6 月 27 日

変更履歴

項	版数	変更日付	変更内容
1	1.0.0	2018/4/1	新規作成
2	1.1.0	2020/3/16	操作マニュアルのレイアウト変更（通信パッケージ Ver1.1.1）
3	1.2.0	2022/6/27	ヘルプのリンク先変更

目次

1. はじめに	1
2. 操作メニュー	2
2. 1 ファイル受信	5
2. 1. 1 ファイル受信	5
2. 1. 2 ファイル再受信	8
2. 2 ファイル送信	12
2. 2. 1 ファイル送信	12
2. 2. 2 ファイル再送信	16
2. 3 情報	22
2. 3. 1 センター蓄積照会	22
2. 3. 2 オーディットトレイル照会	24
2. 3. 3 状況確認照会	26
2. 4 設定（共通）	28
2. 4. 1 メッセージマスタ設定	28
2. 4. 2 アドレス帳マスタ設定	34
2. 5 設定（ユーザー別）	38
2. 5. 1 スケジュールマスタ設定	38
2. 5. 2 振分けマスタ設定	49
2. 6 その他	54
2. 6. 1 転送結果検索	54
2. 6. 2 システムログ検索	57
2. 6. 3 システム監視	59
2. 6. 4 要求取り消し	61
2. 6. 5 エラーコード一覧	63
2. 7 ユーザー切替	64
3. システム管理メニュー	65
3. 1 システム運用	66
3. 1. 1 システム起動・停止	66
3. 1. 2 パスワード設定	68
3. 1. 3 振分け情報受信	70
3. 2 環境設定	71
3. 2. 1 システム環境設定	71
3. 2. 2 ユーザー登録	78
4. ツール	83
4. 1 バックアップ・リストアツール	83
4. 2 設定情報取得ツール	87
4. 3 自動起動設定ツール	89
5. 補足	91

5. 1	受信ファイル命名規則	91
5. 2	アプリケーションフォーマット	94

1. はじめに

このマニュアルは、TDC 通信パッケージの操作マニュアルです。

【本マニュアル関連サイト・ドキュメント】

- ・TDC パッケージ QA サイト

<https://www.toyotasystems.com/service/edi/u-diex/doc/pkg-qa/>

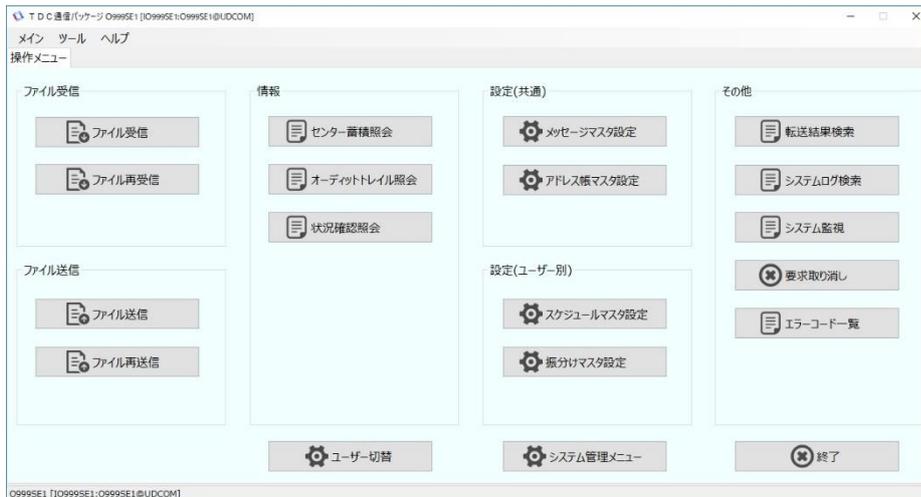
- ・用語集

<https://www.toyotasystems.com/service/edi/u-diex/doc/pkg-qa/glossary.pdf>

- ・TDC 通信パッケージ操作マニュアル（本マニュアル）

<https://www.toyotasystems.com/service/edi/u-diex/doc/pkg-qa/pkgctl.pdf>

2. 操作メニュー



【機能概要】

- ・ファイルの受信や送信、状況確認、マスタ管理など業務に関する各機能を選択します。

【運用手順】

- ①実施する機能を押下します。
- ②操作メニューを終了する場合は、[終了]を押下します。

【操作説明】

- ・各ボタンの概要を説明します。

■ ファイル受信

◆ [ファイル受信](#)

- ・DIEX(汎用)センター及び、u-DIEX(汎用)センターからファイルを受信します。

◆ [ファイル再受信](#)

- ・TDC 通信パッケージがローカルに保管している前回受信時のファイルを指定した受信ディレクトリに再受信します。

ローカルに無い場合は、DIEX(汎用)センター及び、u-DIEX(汎用)センターから再受信を試みます。

■ ファイル送信

◆ [ファイル送信](#)

- ・DIEX(汎用)センター及び、u-DIEX(汎用)センターへのファイル送信を行います。

◆ [ファイル再送信](#)

- ・過去のファイル送信の再送信、または、上書き再送信を行います。

■ 情報

◆ [センター蓄積照会](#)

・DIEX(汎用)センター及び、u-DIEX(汎用)センターに未受信のファイルが存在するか確認します。

◆ [オーデイトトレイル照会](#)

・オーデイトトレイル情報を確認します。

◆ [状況確認照会](#)

・DIEX(汎用)サービスのみ対象の機能です。

だれが（発信元）、だれに（宛先）データを送付し、いつ受信したか（配布日時）を確認できます。

■ 設定（共通）

※（共通）・・・該当端末の TDC 通信パッケージに登録されているユーザー全てに共通する情報を管理します。

◆ [メッセージマスタ設定](#)

・メッセージマスタ（メッセージ識別子に分類されるデータ情報）を管理します。

◆ [アドレス帳マスタ設定](#)

・アドレス帳マスタ（宛先、発信元の情報）を管理します。

■ 設定（ユーザー別）

※（ユーザー別）・・・ログオン中のユーザーの情報を管理します。別ユーザーの情報を扱う際は、ユーザー切替が必要です。

◆ [スケジュールマスタ設定](#)

・スケジュールマスタ（タイマーにて送信、受信、振り分け受信を行う処理情報）を管理します。

◆ [振り分けマスタ設定](#)

・振り分けマスタ（u-DIEX(汎用)サービス上の宛先情報）を管理します。

■ その他

◆ [転送結果検索](#)

・送信処理、受信処理、センター蓄積照会などの処理結果を確認します。

◆ [システムログ検索](#)

・TDC 通信パッケージのシステムエラーなどを確認します。

◆ [システム監視](#)

・TDC 通信パッケージのシステム稼働状態を確認します。

◆ [要求取り消し](#)

・TDC 通信パッケージが処理中の処理要求を確認します。

◆ [エラーコード一覧](#)

・TDC 通信パッケージが返すエラーコードの説明が確認できます。

■ [ユーザー切替](#)

・ログオンしているユーザーを別のユーザーに切り替えます。

■ システム管理メニュー

- ・システム管理メニューを表示します。システムの起動／停止、システム環境設定などを行います。

■ 終了

- ・操作メニューを閉じます。 ※システム起動した TDC 通信パッケージがシステム停止するわけではありません。

■ メイン

◆ 操作メニュー

- ・操作メニューを表示します。

◆ システム管理メニュー

- ・システム管理メニューを表示します。システムの起動／停止、システム環境設定などを行います。

◆ 終了

- ・操作メニューを閉じます。

※システム起動した TDC 通信パッケージがシステム停止するわけではありません。

■ ツール

◆ バックアップ・リストアツール

- ・通信パッケージのバックアップまたはリストアを行います。

◆ 設定情報取得ツール

- ・調査の為に通信パッケージの設定情報などを取得します。

◆ 自動起動設定ツール

- ・自動起動の設定を変更します。

■ ヘルプ

◆ 操作説明

- ・操作マニュアルを表示します。

- ・URL

<https://www.toyotasystems.com/service/edi/u-diex/doc/pkg-qa/pkgctl.pdf>

◆ 用語集

- ・用語集を表示します。

- ・URL

<https://www.toyotasystems.com/service/edi/u-diex/doc/pkg-qa/glossary.pdf>

◆ QA サイトを表示

- ・FAQ サイトを表示します。

- ・URL

<https://www.toyotasystems.com/service/edi/u-diex/doc/pkg-qa/>

※いずれも、該当端末がイントラネットまたはインターネットに接続できる環境の場合に可能です。

2. 1 ファイル受信

2. 1. 1 ファイル受信



【機能概要】

- ・受信するファイルの情報及び受信オプションを指定し、ファイルの受信指示を行います。
- ・1度に受信できるファイル件数は150件までとなります。
- ・受信指示は、通常（受信の完了を待たない）、または優先（受信の完了待ち）で行います。

【運用手順】

- ① 受信設定として、メッセージ識別子・発信元・受信ファイルを保存するパス名・ファイル統合の指定を行います。
- ② 指示の形式として、通常、または優先の指定を行います。
- ③ 受信結果が応答メッセージに表示されます。

【操作説明】

- ・入力項目、および選択項目についての指定方法を説明します。

1. 受信設定の指定

受信先の情報として、受信するファイルのメッセージ識別子と発信元の指定を行います。

A)メッセージ識別子は、任意の入力、または選択ボタンのクリックにより表示されるメッセージ識別子選択ダイアログで指定します。

※メッセージ識別子選択ダイアログでは、任意のメッセージ識別子をダブルクリック、または Enter キーのクリックで対象を確定します。



3. 通常・優先の受信指示

受信指示の方法は、通常と優先の2通りがあります。

ファイルの受信指示を、完了を待たずに非同期で行いたい場合は、[通常] ボタンをクリックします。

※非同期で受信指示を行った場合は、直ちにファイルが受信されるとは限りません。

([転送結果検索画面](#)で処理結果を確認して下さい)

ファイルの受信指示を、完了を待つ同期で行いたい場合は、[優先] ボタンをクリックします。

※ファイルの受信完了後に、受信結果として応答メッセージ欄にステータスとメッセージが表示されます。

4. 画面を終了したいとき

ファイル受信画面を終了したい場合は、[閉じる] ボタンをクリックします

2. 1. 2 ファイル再受信



【機能概要】

- 過去の受信指示より検索を行い、再受信の対象となる受信指示を画面上に一覧表示を行います。
- 再受信を行う受信指示を指定します。
 - ※通常：受信の完了を待たない 優先：受信の完了を待つ

【運用手順】

- ① 検索条件の指定を行い、過去の受信指示より一覧表示を行います。
- ② 一覧表示された過去の受信指示より、再受信を行う受信指示の指定を行います。（複数指定可）
- ③ 指示の形式として、通常 又は 優先の指定を行います。
- ④ 受信結果が応答メッセージに表示されます。

【操作説明】

- 入力項目 及び 選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の検索条件指定

- 過去の受信指示を画面上に一覧表示する為の検索条件は、メッセージ識別子及び日付で指定を行います。指定した条件を全て満たした受信指示が表示の対象となります。

A)メッセージ識別子は、任意の入力 又は 選択ボタンのクリックにより表示されるメッセージ識別子選択画面で指定を行います。

メッセージ識別子選択画面では、任意のメッセージ識別子をマウスでダブルクリック、又は選択後、Enter キーのクリックで対象の確定を行います。

※メッセージ識別子の一致する受信指示が表示の対象となります。



B)期間指定は、以下の3通りの方法より指定が可能です。

a.開始日時・終了日時の指定による検索

開始日時と終了日時の指定を行い、その間に行われた受信指示が表示の対象となります。

※初期表示は、開始日時は当日の0:00、終了日時は翌日の0:00が表示されます。

b.現在より過去の日数による検索

現在から過去の日数の指定を行い、その間に行われた受信指示が表示の対象となります。

※入力可能な日数は1~99日です。

c.現在より過去の時間数による検索

現在から過去の時間数の指定を行い、その間に行われた受信指示が表示の対象となります。

※入力可能な時間数は1~999時間です。

2. 受信情報の指定

・受信するファイルの情報として、ファイルパス名の指定を行います。

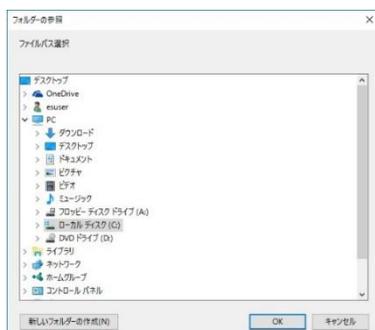
受信したファイルは指定したパスのディレクトリ内に保管されます。

A)ファイルパス名は、任意の入力 又は選択ボタンのクリックにより表示されるファイルパス

選択画面で指定を行います。ファイルパス選択画面では、任意の受信パスを

選択後 Enter キーのクリック又は マウスで画面上の [OK] ボタンのクリックで対象の確定を行います。

※指定したファイルパスが存在しない場合、ディレクトリの自動生成は行われずエラーとなります。



3. 一覧表示の検索指示

・指定済みの検索条件で過去に行った受信指示を画面上に一覧表示する場合に指示を行います。

A)指示方法は、マウスで画面上の [検索] ボタンのクリックにより、検索を開始して一覧表示を

行います。検索を行った結果、対象となった受信指示の件数が右下に表示されます。

4. 再受信の指定

・再受信の指定は、過去の受信指示を表示した画面上の一覧表示からの選択により行います。

A)指定方法は、一覧表示より再受信を行う再受信の欄をマウスでダブルクリック又は、選択後、Enter キーのクリックで指定を行います。再受信の欄に'Y'が表示されている受信指示が再受信の対象となります。(複数選択可)

※指定済みで'Y'が表示されている受信指示を、再度指定することにより指定のキャンセルとなります。

5. 通常・優先の受信指示

・受信指示の方法は、通常と優先の2通りがあります。

A)ファイルの再受信を、受信の完了を待たずに非同期で行いたい場合は、マウスで画面上の [通常] ボタンのクリックにより行います。

B)ファイルの再受信を、受信の完了を待つ同期で行いたい場合は、マウスで画面上の [優先] ボタンのクリックにより行います。

※ファイル再受信の完了後に、受信結果として応答メッセージ欄にステータスとメッセージが表示されます。

※ファイルの再受信ができなかった受信指示に対しては、一覧表示の再受信の欄に'エラー'と表示され、以降の再受信処理は終了します。エラーとなった受信指示に対しては、「**4. 再受信の指定**」と同様の手順で再度再受信の指定を行うことができます。

6. 受信ファイルの詳細表示

- ・ [ファイル詳細] ボタンのクリックにより、ファイル詳細情報画面に遷移し、受信したファイルの内容を確認できます。

再受信	サブSEQ	エラーコード	ファイルコード	宛先	発信元	ファイル作成日付	当日SEQ	件数
0001	000-000							000001
0001	000-000	TNS		8489	8489	180801	02	000044
0001	000-000							000001

- A)ファイル詳細情報画面で表示の対象になるデータは、ファイル再受信画面で「**4. 再受信の指定**」の手順により選択されている行のデータです。
- B)再受信するファイルの指定方法は、「**4. 再受信の指定**」と同じです。
- C)通常・優先の受信指示方法は、「**5. 通常・優先の受信指示**」と同じです。
- D)ファイル詳細情報画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [戻る] ボタンのクリックにより終了し、ファイル再受信画面に戻ります。

7. 画面を終了したい時

- ・画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [閉じる] ボタンのクリックにより終了を行います。

2. 2 ファイル送信

2. 2. 1 ファイル送信

The screenshot shows a window titled "TDC通信パッケージ O999SE1 [O999SE1@UDCCOM]". The menu bar includes "メイン ツール ヘルプ" and the operation menu is "操作メニュー ファイル送信".

送信設定

メッセージ識別子(*): 選択

宛先(*): 選択

ファイル名(*): 選択

送信情報

アプリケーション有効長:

フォーマット: TNS形式 TNS拡張形式 標準形式 自由形式

ヘッダー作成: しない する

ファイルタイプ拡張子(*):

コード変換: しない する

圧縮: しない する

暗号化: しない する

応答メッセージ:

Buttons: 通常, 優先, 閉じる

【機能概要】

- ・送信するファイル情報及び送信オプションを指定し、ファイルの送信指示を行います。
- ・送信指示は、[通常]（送信の完了を待たない）、または[優先]（送信の完了待ち）で行います。
- ・マルチファイル(1 ファイルに複数の HDT を含む)を送信することが可能です。
(詳細は、【[5. マルチファイルを送信したい時](#)】を参照してください。)

【運用手順】

- ①送信設定として、メッセージ識別子・宛先・ファイル名の指定を行います。
- ②送信情報として、アプリケーション有効長・フォーマット・ヘッダー作成・ファイルタイプ拡張子・コード変換・圧縮・暗号化の指定を行います。
- ③指示形式として、通常・優先のボタン指定を行います。
- ④送信結果が応答メッセージに表示されます。

【操作説明】

- ・入力項目、および選択項目についての指定方法を説明します。

1. 送信設定の指定

送信先設定として、メッセージ識別子・宛先・ファイル名の指定を行います。

送信するファイルの情報として、メッセージ識別子・宛先・送信ファイル名の指定を行います。



A)メッセージ識別子は、任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示されるメッセージ識別子選択ダイアログで指定を行います。

- ※メッセージ識別子選択ダイアログでは、メッセージ識別子をダブルクリック、または Enter キーで対象を確定します



B)宛先は、任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示される別名選択ダイアログで指定を行います。

- ※別名選択ダイアログでは、宛先をダブルクリック、または Enter キーで対象を確定します。
- ※直接入力して指定する場合は、アドレス帳マスタに設定した別名・ニックネーム・宛先のいずれも指定可能です。
- ※英文字は大文字と小文字が区別されます。



C)ファイル名は、任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示されるファイル選択ダイアログで指定を行います。

-
- ※ファイル選択ダイアログでファイルが格納されているディレクトリの選択をクリック、またはカーソルキーで指定できます。
 - ※選択されたディレクトリに格納されているファイルのファイル名は、画面右側に一覧として表示されます。
 - ※その中から送信するファイルのファイル名をダブルクリック、または Enter キーで確定します。
 - ※ファイル名の拡張子を省略するとファイルタイプ拡張子で指定した拡張子がデフォルトとして使用され、送信ファイル名が作成されます。

2. 送信情報の指定

送信情報の指定では、ファイルを送信する時に行う処理として、アプリケーション有効長・フォーマット・ヘッダー作成・ファイルタイプ拡張子・コード変換・圧縮・暗号化の指定を行います。

※送信情報の各項目は、送信設定でメッセージ識別子を選択したとき、メッセージマスタよりデフォルト値が表示されます。

A)アプリケーション有効長は、アプリケーションフォーマットの指定が「T N S形式」

「T N S 拡張形式」の場合のみ指定可能です。

※「T N S形式」の場合は、「2～250」バイトで指定を行います。

※「T N S 拡張形式」の場合は、「7～1000」バイト、または「空白（未入力）」で指定を行います。

※ヘッダー作成の指定を「しない」の場合は、指定不可となります。

B)フォーマットの指定は、「T N S形式」「T N S 拡張形式」「標準形式」「自由形式」の4通りから選択して指定を行います。

C)ヘッダー作成は、フォーマットの指定が「T N S形式」「T N S 拡張形式」の場合のみ指定可能で、「する」「しない」の指定を行います。

D)ファイルタイプ拡張子の指定は、送信ファイルの拡張子を指定します。

E)コード変換は、送信するファイルのコードを変換「する」「しない」の指定を行います。

F)圧縮は、送信するファイルの圧縮を「する」「しない」の指定を行います。

※u-DIEX(汎用) に送信する場合は、本設定は無効となります。

※アプリケーション形式が「T N S形式」「T N S 拡張形式」の場合は、設定内容に関わらず、常にファイルが圧縮されます。

G)暗号化は、ファイルの暗号化を「する」「しない」の指定を行います。

※u-DIEX(汎用) に送信する場合は、本設定は無効となり、システム環境設定での u-DIEX の暗号化の設定内容に従います。

3. 通常・優先の送信指示

送信指示の方法は、[通常]と[優先]の2通りがあります。

A)ファイルの送信指示を、完了を待たずに非同期で行いたい場合は、[通常] ボタンをクリックします。

※非同期で送信指示を行った場合は、直ちにファイルが送信されるとは限りません。

[転送結果検索画面](#)で確認して下さい。

B)ファイルの送信指示を、完了を待つ同期で行いたい場合は、[優先] ボタンをクリックします。

※ファイルの送信完了後に、送信結果として応答メッセージ欄にステータスとメッセージが表示されます。

4. 画面を終了したい時

ファイル送信画面を終了したい場合は、[閉じる] ボタンをクリックします。

5. マルチファイルを送信したい時

同一のファイルコードをもつファイルに対して、複数の宛先へ送信可能です。

マルチファイル内のファイル件数には制限があります。(下記参照)

<注意事項>

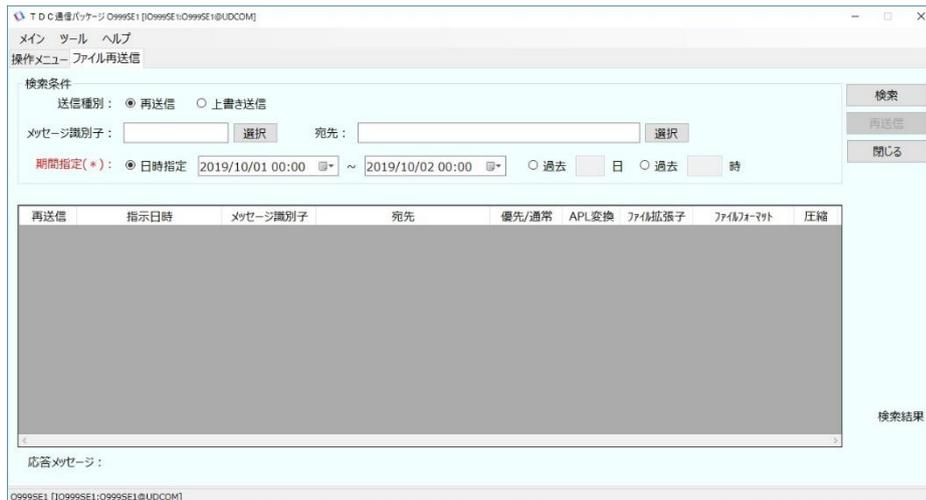
送信できるマルチファイル件数は、600 件になります。

(他の処理要求指示がない場合に、送信したときの送信可能な件数です)

マルチファイル送信時に「202-202：内部メモリー領域がフルになりました。要求データはキャンセルされました。」とエラーメッセージが表示されたときは、現在実行中の処理が終了後に、再度送信を指示する必要があります。(下記参照)

- 1)お客様が 400 件からなるマルチファイルを送信 (処理①)
- 2)要求①の処理が終了しない間に、300 件からなるマルチファイルを送信 (処理②)
- 3)送信可能なファイル件数は 600 件までの為、「202-202」エラーが発生。

2. 2. 2 ファイル再送信



【機能概要】

- ・過去の送信指示より検索を行い、再送信、および上書き送信の対象となる送信指示を区別し、ファイル再送信画面上に一覧表示を行います。
- ・再送信、または上書き送信を行う送信指示を指定します。
- ・再送信は前回指定された状態（通常／優先）で送信指示を行います。
- ・上書き送信は通常／優先を指定して送信指示を行います。
 - ※通常：送信の完了を待たない
 - 優先：送信の完了を待つ

【運用手順】

A)再送信

- ①検索条件の指定を行い、過去の送信指示よりの一覧表示を行います。
- ②一覧表示された過去の送信指示より、再送信を行う送信指示の指定を行います。（複数指定可）
- ③ [再送信指示] を行います。
- ④送信結果が応答メッセージに表示されます。

※転送エラーが発生し、前回の送信指示と同じ内容で送信を行う場合に行います。

B)上書き送信

- ①検索条件の指定を行い、過去の送信指示より一覧表示を行います。
- ②一覧表示された過去の送信指示より、上書き送信を行う送信指示の指定を行います。（複数指定可）
- ③ [再送信指示] を行います。
- ④ファイル上書き送信指示の画面が表示されます。
- ⑤送信設定として、メッセージ識別子・宛先・ファイル名の指定を行います。
- ⑥送信情報として、アプリケーション有効長・フォーマット・ヘッダー作成・ファイルタイプ拡張子コード変換・圧縮・暗号化の指定を行います。
- ⑦指示形式として、通常・優先のボタン指定を行います。

⑧送信結果が応答メッセージに表示されます。

※前回の送信指示の内容を変更して送信を行う場合に行います。

(ただし、メッセージ識別子と宛先の変更は行えません)

※送信ファイルの内容が変更された場合も、上書き送信を指定する必要があります。

【操作説明】

・入力項目、および選択項目についての指定方法を説明します

1. 一覧表示の検索条件指定

過去の送信指示を画面上に一覧表示する為の検索条件は、送信種別・メッセージ識別子・宛先・期間指定で行います。指定した条件を全て満たした送信指示が表示の対象となります。

A)送信種別は、以下の2通りから指定します。

a.過去に行った送信指示で、異常終了した送信指示を前回指定した条件で再度送信指示を行う場合、「再送信」を指定します。

b.過去に行った送信指示で、正常終了した送信指示内容を変更して行う場合、「上書き送信」を指定します。

B)メッセージ識別子は、任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示されるメッセージ識別子選択ダイアログで指定を行います。

※メッセージ識別子選択ダイアログでは、メッセージ識別子をダブルクリック、または Enter キーにより対象の確定を行います。



※メッセージ識別子の一致する送信指示が表示の対象となります。

※ブランク (未指定) の場合は、全てのメッセージ識別子が対象となります。

C)宛先は、任意の入力 又は [選択] ボタンのクリックにより表示される別名選択ダイアログで指定を行います。

※別名選択ダイアログでは、宛先をマウスでのダブルクリック、または Enter キーで対象を確定します。



※宛先の一致する送信指示が表示の対象となります。

※ブランク（未指定）の場合は、全ての宛先が対象となります。

D)日付指定は、以下の3通りの方法より指定が可能です。

a.開始日時・終了日時の指定による検索

開始日時と終了日時の指定を行い、その間に行われた送信指示が表示の対象となります。

※初期表示は、開始日時は当日の0:00、終了日時は翌日の0:00が表示されます。

b.現在より過去の日数による検索

現在から過去の日数の指定を行い、その間に行われた送信指示が表示の対象となります。

※入力可能な日数は1~99日です。

c.現在より過去の時間数による検索

現在から過去の時間数の指定を行い、その間に行われた送信指示が表示の対象となります。

※入力可能な時間数は1~999時間です。

2. 一覧表示の検索指示

指定済みの検索条件で過去に行った送信指示を画面上に一覧表示する場合に指示を行います。

A)ファイル再送信指示画面上の「検索」ボタンのクリックにより、検索を開始して一覧表示を行います。

B)検索を行った結果、対象となった送信指示の件数が右下に表示されます。

3. 再送信・上書き送信の表示

検索条件で過去に行った送信指示を検索・一覧表示した時に、送信種別を「再送信」とし、再送信の対象となる送信指示が表示されている場合は、ファイル再送信指示画面上に「再送信データ」と表示されます。

送信種別を「上書き送信」とし、上書き送信の対象となる送信指示が表示されている場合は、ファイル再送信指示画面上に「上書き送信データ」と表示されます。

画面に一覧表示されているデータの種別であり、一覧表示後、検索条件の送信種別を変更した場合でも検索開始を行わない限り、表示内容は変更されません。

4. 再送信・上書き送信の指定

再送信・上書き送信の指定は、過去の送信指示を表示した画面上の一覧表示から選択により行います。「再送信データ」として検索・表示されている場合、一覧表示から指定した送信指示は再送信が行われ、「上書き送信データ」として検索・表示されている場合は、上書き送信指示が行われます。

A)指定方法は、一覧表示より再送信・上書き送信を行う対象の「再送信」の欄をEnterキー、またはダブルクリックします。

※再送信の欄に"Y"が表示されている送信指示が、再送信指示・上書き送信指示の対象となります。

※指定済みで"Y"が表示されている送信指示を、再度指定することにより指定のキャンセルとなります。

5. 再送信指示

送信指示の方法は、前回指示した内容で送信され変更することはできません。

A) 一覧表示から再送信する対象を選択し、[再送信] ボタンをクリックします。

※複数の送信指示を選択して再送信指示を行った場合、送信開始後、途中でのキャンセルは行えません。

※ファイル再送信の完了後に、送信結果として応答メッセージ欄にステータスとメッセージが表示されます。

※ファイル再送信ができなかった送信指示に対しては、一覧表示の再送信の欄に"エラー"と表示され、以降の再送信処理は中断します。

※エラーとなった送信指示に対しては、【4. 再送信・上書き送信の指定】と同様の手順で再度、再送信の指定を行うことができます。

6. 上書き送信の再送信情報指定

再送信情報の指定は、前回行った送信指示の情報を変更して送信指示を行う場合に指定を行います。



A) 一覧表示から上書き送信の対象を選択し、[再送信] ボタンのクリックにより、ファイル上書き送信指示画面に遷移します。

※ファイル上書き送信指示画面では、前回送信指示を行った内容が画面に表示されます。

※次のデータを表示させたい時は、ファイル再送信指示画面上の [次データ] ボタンをクリックします。

※前のデータを表示させたい時は、ファイル再送信指示画面上の [前データ] ボタンをクリックします。

※表示されるデータの範囲は、ファイル再送信指示画面の一覧表示内で再送信の指定を行ったデータのみです。

B) 前回行った送信指示の結果として、指示日時・最終送信時間・通常／優先・結果ステータスが表示されます。

C) メッセージ識別子・宛先は、過去に行った送信指示内容を変更することはできません。

D) アプリケーション有効長は、フォーマットの指定が「T N S形式」「T N S拡張形式」の場合のみ指定可能です。

※「T N S形式」の場合は、「2～250」バイトで指定を行います。

※「T N S 拡張形式」の場合は、「7～1000 バイト」、または「空白（未入力）」バイトで指定を行います。

E)フォーマットの指定は、「T N S 形式」「T N S 拡張形式」「標準形式」「自由形式」の4通りから選択します。

F)ヘッダー作成は、フォーマットの指定が「T N S 形式」「T N S 拡張形式」の場合のみ指定可能です。
※フォーマット変換を「する」「しない」の指定を行います。

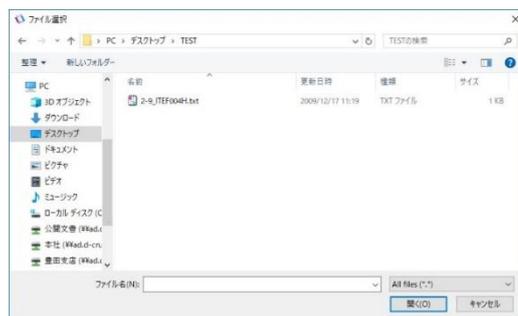
G)ファイルタイプ拡張子の指定は、送信ファイルの拡張子を指定します。

H)ファイル名は、任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示されるファイル選択ダイアログで指定を行います。

※ファイル選択画面で送信ファイルが格納されているディレクトリをマウスでクリック、またはカーソルキーで選択を行うことができます。

※選択されたディレクトリに格納されているファイル名は、画面右側に一覧として表示され、送信ファイルのファイル名をダブルクリック、または Enter キーにより対象とするファイルの確定を行います。

※ファイル名の拡張子を省略するとファイルタイプ拡張子で指定した拡張子がデフォルトとして使用され、送信ファイル名が作成されます。



I)コード変換は、送信するファイルのコード変換を「する」「しない」の指定を行います。

J)圧縮は、送信するファイルの圧縮を「する」「しない」の指定を行います。

K)暗号化は、ファイルの暗号化を「する」「しない」の指定を行います。

※u-DIEX(汎用) に送信する場合は、本設定は無効となり、システム環境設定"u-DIEX"の暗号化の設定内容に従います。

7. 通常・優先の上書き送信指示

上書き送信指示の方法は、前回指示した内容に関係なく通常と優先の2通りで行います。

A)ファイルの上書き送信指示を、完了を待たずに非同期で行いたい場合は、

上書き送信指示画面上の【通常】ボタンをクリックします。

※非同期で送信指示を行った場合は、直ちにファイルが送信されるとは限りません。

([転送結果検索画面](#)で確認して下さい)

B)ファイルの上書き送信指示を、完了を待つ同期で行いたい場合は、【優先】ボタンをクリックします。

※ファイルの受信完了後に、送信結果として応答メッセージ欄にステータスとメッセージが表示されます。

※ファイル上書き送信ができなかった送信指示に対しては、画面の再送信の欄に"エラー"と表示され、以降の上書き送信処理は中断します。

※エラーとなった送信指示に対しては、【4. [再送信・上書き送信の指定](#)】と同様の手順にて上書き送信の指定を行うことができます。

8. ファイル上書き送信画面を終了したいとき

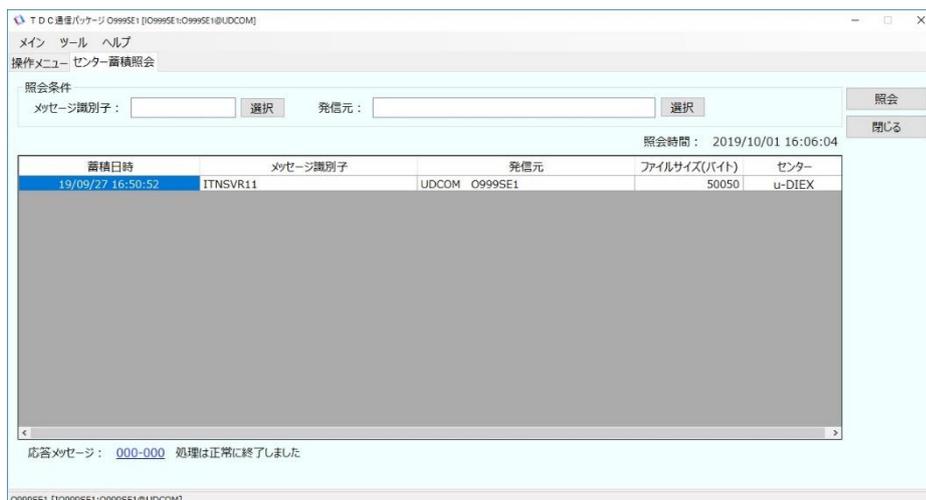
ファイル上書き送信画面を終了したい場合は、【戻る】ボタンをクリックします。

9. ファイル再送信画面を終了したいとき

ファイル再送信画面を終了したい場合は、【閉じる】ボタンをクリックします。

2. 3 情報

2. 3. 1 センター蓄積照会



【機能概要】

- ・センター上に蓄積されている未受信ファイル（受信ファイル指示の対象となるファイル）の蓄積状況をセンターに問合せ、その結果を画面上に一覧表示します。
※問合せ対象のセンターは、システム環境の設定やユーザー登録内容により DIEX(汎用)のみ、u-DIEX(汎用)のみ、DIEX(汎用)と u-DIEX(汎用)の両方となります。
- ・問い合わせを行う条件として、メッセージ識別子・発信元を指定可能とします。

【運用手順】

- ①照会条件の指定を行い、受信ファイルの一覧表示を行います。
- ②問い合わせ結果が応答メッセージに表示されます。

【操作説明】

- ・入力項目 及び 選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の照会条件指定

- ・DIEX(汎用)と u-DIEX(汎用)に受信ファイルの蓄積状況を問い合わせる為の、照会条件を指定します。
指定した条件を全て満たした受信ファイルが表示の対象となります。

A)メッセージ識別子は、任意の入力 又は 選択ボタンの押下により表示されるメッセージ識別子
選択画面で指定を行います。

- ※メッセージ識別子選択画面では、任意のメッセージ識別子をマウスでダブルクリック 又は 選択後、Enter キーの押下により対象メッセージ識別子の確定を行います。



※メッセージ識別子の一致する受信ファイルが表示の対象となります。

※ブランク（未指定）の場合は、全てのメッセージ識別子が対象となります。

B) 発信元は、任意の入力 又は [選択] ボタンの押下により表示される別名選択画面で指定を行います。

※別名選択画面では、発信元名をマウスでダブルクリック 又は、選択後、Enter キーの押下により対象発信元の確定を行います。

※発信元の一致する受信ファイルが表示の対象となります。

※ブランク（未指定）の場合は、全ての発信元が対象となります。

※英文字は大文字と小文字が区別されます。



2. 一覧表示の照会指示

・DIEX(汎用)と u-DIEX(汎用) に対して、受信ファイルの蓄積状況の問い合わせを行います。

A) 指定した照会条件で受信ファイルを表示する場合、マウスでセンター蓄積照会画面上の [照会] ボタンをクリックします。

※問い合わせを行った日時が、画面に照会時間として表示されます。

※受信ファイルの情報照会後に、照会結果として応答メッセージ欄にステータスとメッセージが表示されます。

3. 画面を終了したい時

・センター蓄積照会画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [閉じる] ボタンをクリックします。

2. 3. 2 オーディットトレイル照会



【機能概要】

- ・照会条件を指定してオーディットトレイルの情報を DIEEX(汎用)と u-DIEX(汎用) に問い合わせを行い、問い合わせ結果面上に一覧表示します。
- ・照会条件として期間指定・メッセージ区分・メッセージ状態を指定可能とします。

【運用手順】

- ①照会条件の指定を行い、オーディットトレイル情報の一覧表示を行います。
- ②問い合わせ結果が応答メッセージに表示されます。

【操作説明】

- ・入力項目 及び 選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の照会条件指定

- ・DIEEX(汎用)と u-DIEX(汎用)にオーディットトレイルの情報を問い合わせる為の、照会条件を指定します。指定した照会条件を全て満たした受信ファイルが表示の対象となります。

A)期間指定は、以下の2通りの方法より指定が可能です。

a)開始日付・終了日付の指定による検索

開始日付と終了日付の指定を行い、その間に該当する送信日時のオーディットトレイル情報が表示の対象となります。

b)現在より過去の日数による検索

現在から、過去の日数を指定することにより、その間に該当する送信日時のオーディットトレイル情報が表示の対象となります。

※入力可能な日数は1～99日です。

B)メッセージ区分は、一覧表示の対象とするファイルの区分を限定する場合に指定を行います。
全てを対象とする場合は「全て」、受信のみを対象とする場合は「受信」、
送信のみを対象とする場合は「送信」の指定を行います。

C)メッセージ状態は、一覧表示の対象とするファイルの状態を限定する場合に指定を行います。
全てを対象とする場合は「全て」、未受信のみを対象とする場合は「未受信」、受信済のみを
対象とする場合は「受信済」、削除のみを対象とする場合は「削除」の指定を行います。

2. 一覧表示の照会指示

・DIEX(汎用)と u-DIEX(汎用)に対して、オーデイトトレイル情報の問い合わせを行います。

A)指定した照会条件でオーデイトトレイルを表示する場合、オーデイトトレイル照会画面上の
[照会] ボタンのクリックにより行います。
※問い合わせを行った日時が、画面に照会時間として表示されます。
※オーデイトトレイルの情報受信後に、受信結果として応答メッセージ欄にステータスと
メッセージが表示されます。

3. 詳細表示

・オーデイトトレイル照会画面上の [詳細] ボタンの選択により、画面上に一覧表示しているデータの
詳細を詳細情報画面に表示します。

A)詳細情報画面で初期表示の対象になるデータは、一覧表示で現在選択されている行のデータです。
※詳細情報画面上の [次データ] ボタンのクリックにより、一覧表示の次のデータを表示します。
※詳細情報画面上の [前データ] ボタンのクリックにより、一覧表示の前のデータを表示します。
※一覧表示されていない状態での詳細情報表示はできません。



B)詳細情報画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [戻る] ボタンのクリックにより終了を行います。

4. 画面を終了したい時

・画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [閉じる] ボタンのクリックにより終了を行います。

2. 3. 3 状況確認照会

着信日時	発信元	宛先	クラス	メッセージ種類	配布日時	レコード件数
18/01/25 17:19:08	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/25 17:19:08	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/25 17:19:24	O9990999U01	O9990999U02	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/25 17:19:41	O9990999U01	O9990999U03	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/25 17:19:56	O9990999U01	O9990999U04	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/25 17:20:12	O9990999U01	O9990999U05	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/29 09:50:35	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/29 09:50:35	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/29 09:50:35	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ	18/01/29 09:51:06	
18/01/29 09:50:35	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ	18/01/29 09:51:06	
18/01/29 15:36:13	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/29 15:36:13	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/29 15:36:13	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ	18/01/29 15:36:58	
18/01/29 15:36:13	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ	18/01/29 15:36:58	
18/01/29 15:38:41	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/29 15:38:41	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/29 16:27:23	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/29 16:27:23	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/30 13:44:30	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		
18/01/30 13:44:30	O9990999U01	O9990999U01	普通	1-ザ--メッセージ		

応答メッセージ: 000-000 処理は正常に終了しました

【機能概要】

- ・送受信を行ったファイル及び受信の対象となるファイルの状況を DLEX(汎用)に問い合わせを行い、問い合わせ結果を画面上に一覧表示します。
- ・照会を行う条件の指定はありません。
- ・照会を行えるのは、DLEX(汎用)に対してのみで、u-DLEX(汎用)のファイルの状況は照会できません。

【運用手順】

- ①照会指示を行い、送受信を行ったファイル、及び受信の対象となるファイルの状況を画面上に一覧表示します。
- ②問い合わせ結果が応答メッセージに表示されます。

【操作説明】

- ・入力項目、及び選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の照会指示

DLEX(汎用)に対して、送受信を行ったファイル 及び 受信の対象となるファイルの状況問い合わせを行います。

送受信ファイルの状況を表示する場合、[照会] ボタンのクリックにより行います。

※問い合わせを行った日時が、画面に照会時間として表示されます。

※ファイル状況情報受信後に、受信結果として応答メッセージ欄にステータスとメッセージが表示されます。

2. 詳細表示

〔詳細表示〕 ボタンのクリックにより、詳細情報画面に遷移し、一覧表示されているデータの内容を確認できます。



A) 詳細情報画面で初期表示の対象になるデータは、一覧表示で現在選択されている行のデータです。

※ 詳細情報画面上の〔次データ〕 ボタンのクリックにより、一覧表示の次のデータを表示します。

※ 詳細情報画面上の〔前データ〕 ボタンのクリックにより、一覧表示の前のデータを表示します。

※ 一覧表示されていない状態で、〔詳細表示〕 ボタンはクリックできません。

B) 詳細情報画面を終了したい場合は、〔戻る〕 ボタンをクリックします。

3. 画面を終了したい時

状況確認照会画面を終了したい場合は、〔閉じる〕 ボタンをクリックします。

2. 4 設定 (共通)

2. 4. 1 メッセージマスタ設定

メッセージ識別子	ファイルコード	フォーマット	有効長	拡張子	圧縮	暗号化	コード変換	保存期間	バックアップ作成	最終更新日
ITEV006N	FTEV006N	T N S拡張形式		TXT	有	有	有	1	無	2010/04/14 11:13:4
ITNS001H	T1H	T N S形式	2	TXT	無	無	無	1	有	2009/12/21 10:41:0
ITNS001N	T1N	T N S形式	100	TXT	無	無	無	1	無	2009/12/21 10:40:0
ITNS002H	T	T N S形式	91	TXT	無	無	無	1	有	2009/12/21 10:41:4
ITNS002N	T2N	T N S形式	100	TXT	無	無	有	1	無	2019/06/12 13:03:2
ITNS003H	T3H	T N S形式	91	TXT	無	無	無	1	有	2009/12/22 11:17:2
ITNS004H	T4H	T N S形式	91	TXT	無	無	有	1	有	2009/12/22 11:17:3
ITNS005H	T5H	T N S形式	250	TXT	無	無	無	1	有	2009/12/21 10:43:0
ITNSVAZ1	VAZ1	T N S拡張形式	1000	txt	無	無	有	1	有	2019/01/11 13:58:4
TAPLFREE		自由形式		TXT	無	無	無	3	無	2019/02/13 11:14:0
TAPLT1F	T1F	T N S形式	195	TXT	無	無	無	1	無	2019/02/15 13:15:0
TAPLTFE1	TEF1	T N S拡張形式	200	txt	無	無	無	1	無	2018/12/05 17:26:5
TAPLTFE2	TEF2	T N S拡張形式	976	txt	無	無	無	1	無	2018/12/10 17:26:5
TAPLTFE3	TEF3	T N S拡張形式	200	TXT	無	無	無	1	無	2018/12/13 10:43:0
TESTZZZ	ZZZ	T N S形式	55	APL	無	無	無	1	無	2018/11/30 13:54:1
TEXT010M		自由形式		txt	無	無	無	10	無	2019/04/18 17:58:5
TEXT200M		自由形式		txt	無	無	無	10	無	2019/04/18 11:43:5
TEXTFREE		自由形式		txt	無	無	無	10	無	2019/04/08 13:37:5

【機能概要】

- ・メッセージマスタの照会を行い、結果の一覧表示を行います。
- ・メッセージマスタのメンテナンス（登録・削除・変更・更新）作業を行います。

【運用手順】

- ① 検索条件の指定を行い、メッセージマスタのデータを一覧表示します。
- ② メンテナンス作業（登録・削除・変更）を行います。
- ③ メンテナンス内容を、メッセージマスタに反映します。

※メッセージマスタに登録済みのデータを削除する場合、更新処理を行った時点でメッセージマスタに反映されると共に、削除したデータに関連する情報がシステム内より削除されます。

※メッセージマスタに登録済みのデータを変更する場合、メッセージ識別子を変更すると変更前のメッセージ識別子は、削除処理を行われたデータと同様に扱われ、更新処理を行った時に関連する情報がシステム内より削除されます。

【操作説明】

- ・入力項目、および選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の検索条件指定

メッセージマスタに登録済みのデータを画面上に一覧表示する場合に、指定を行います。

A) メッセージ識別子は、任意の文字列を入力することにより指定を行います。

※ 検索条件に入力されたメッセージ識別子の文字列と、メッセージマスタに登録されているメッセージ識別子の先頭より、文字列が一致するデータだけが表示対象となります。

※ ブランク（未入力）の場合は、全てが対象となります。

2. 一覧表示の検索指示

メッセージマスタに登録済みのデータを画面上に一覧表示する場合に行います。

A)指定済みの検索条件で登録済みのデータを表示する場合、[検索] ボタンのクリックにより、検索を開始して一覧表示を行います。

※新規登録の場合、一覧表示を行わずに作業を行うことができます。

※一覧表示は、メッセージ識別子の昇順に表示されます。

3. 新規登録

新規にデータを作成してメッセージマスタに登録する場合に行います。

・新規にデータを作成し登録する場合は、メッセージマスタ設定画面にて、[登録] ボタンのクリックにより登録画面に遷移します。

・登録画面で新規データの入力後、[登録] ボタンのクリックにより、一覧表示の最終行に入力したデータが追加されます。

<設定項目>

項目	説明
メッセージ識別子	ファイルの送受信を行う時の識別子を設定します。 ※1～8文字で設定を行います。 ※半角英数字のみ入力可能です。 ※英文字は大文字のみ入力可能です。
アプリケーションフォーマット	送受信を行うファイルの形式を、「TNS形式」「TNS拡張形式」「標準形式」「自由形式」から設定します。 ※TNS形式は、TNS標準形式とも呼ばれます。また、標準形式は、TDC標準形式とも呼ばれます。 TNS標準形式とTDC標準形式で名称は類似しておりますが、フォーマットは全く異なりますのでご注意ください。 尚、TDC標準形式を設定することは特別な場合を除いてほとんどありません。

ファイルコード	<p>アプリケーションフォーマットが「T N S形式」「T N S拡張形式」の場合に使用する、送受信ファイル名に付加される文字列（ファイルコード）を設定します。</p> <p>※「T N S形式」の時は1～3文字で設定します。</p> <p>※「T N S拡張形式」の時は1～8文字で設定します。</p> <p>※半角英数字のみ入力可能です。</p> <p>※英文字は大文字のみ入力可能です。</p>
アプリケーション有効長	<p>アプリケーションが使用するデータ長を設定し、アプリケーションフォーマットが「T N S形式」「T N S拡張形式」の場合のみ設定します。</p> <p>※「T N S形式」の時は2～250の範囲で設定します。</p> <p>※「T N S拡張形式」の時は7～1000の範囲、もしくはブランク（未入力）で設定します。</p>
ファイルタイプ拡張子	<p>ファイルの拡張子を設定します。</p> <p>※1～3文字で設定を行います。</p> <p>※ファイル送信を行う時に、送信ファイル名に拡張子を指定された場合はファイル名の拡張子が優先されます。</p> <p>※ファイル受信では、受信ファイルのファイル名の拡張子部分となります。</p>
保存期間	<p>ファイルの送受信を行った時に、送信ファイル及び受信ファイルをシステム内に保管する日数を設定します。</p> <p>※ファイルの保存期間を1～30日の範囲で設定します。</p> <p>1～99日の範囲で設定は可能ですが、仕様上は最大30日までとなります。</p>
コード変換	<p>ファイルの送受信を行った時に、送信ファイル、および受信ファイル内の文字コードを変換するか選択により設定します。</p> <p>※アプリケーションフォーマットが「自由形式」の場合は、設定できません。</p> <p>※選択肢として変換「する」「しない」の2通りから設定します。</p> <p>※コード変換の指定が「する」に設定されている場合は、EBCDICコードとASCIIコードの変換が行われます。</p> <p>※全角文字コードの変換は行いません。</p>
圧縮	<p>ファイルの送信を行った時に送信ファイルの圧縮を行うか選択により設定します。</p> <p>※u-DIEX(汎用)とファイルの送受信を行う場合は、本設定は無効となります。アプリケーション形式が「TNS形式」「TNS拡張形式」の場合は設定内容に関わらず、常に圧縮・復元が行われます。</p> <p>※アプリケーションフォーマットが「T N S拡張形式」、または「標準形式」の場合のみ設定します。</p> <p>※選択肢として「する」「しない」の2通りから設定します。</p> <p>※ファイル送信の際にファイルに圧縮されていることを表す情報が設定されるため、受信側での復元はそれより判断して行われます。</p>

暗号化	<p>ファイルの送信を行った時に送信ファイルの暗号化を行か選択により設定します。</p> <p>※u-DIEX(汎用)上でファイルの送受信を行う場合、本設定は無効となり、システム環境設定"u-DIEX"の暗号化の設定内容に従います。</p> <p>※アプリケーションフォーマットが「TNS拡張形式」、または「標準形式」の場合のみ設定します。</p> <p>※選択肢として「する」「しない」の2通りから設定します。</p> <p>※ファイル送信の際にファイルに暗号化されていることを表す情報が設定されるため、受信側での復号はそれより判断して行われます。</p>
ヘッダー作成	<p>送信ファイルにヘッダー情報を作成する、及び、受信ファイルよりヘッダー情報を削除する処理を行うか選択により設定を行います。</p> <p>※アプリケーションフォーマットが「TNS形式」「TNS拡張形式」の場合のみ設定します。</p> <p>※選択肢として「する」「しない」の2通りから設定します。</p>

<アプリケーションフォーマットと設定の制限>

	ファイル コード	アプリケーション 有効長	コード変換	圧縮 (※2)	暗号化 (※3)	ヘッダー 作成
TNS形式 ※TNS標準形式	1~3桁	2~250(※1)	可能	不可	不可	可能
TNS拡張形式 (固定長)	1~8桁	7~1000(※1)	可能	可能	可能	可能
TNS拡張形式 (可変長)	1~8桁	ブランク	可能	可能	可能	不可
標準形式 ※TDC標準形式	不可	不可	可能	可能	可能	不可
自由形式	不可	不可	不可	不可	不可	不可

(※1) ヘッダー作成が「しない」に設定されている場合は設定内容が無効となります。

(※2) u-DIEX(汎用)とファイルの送受信をする場合は、設定内容が無効となります。

また、アプリケーション形式が「TNS形式」「TNS拡張形式」の場合は設定内容に関わらず、常に圧縮・復元が行われます。

(※3) u-DIEX(汎用)とファイルの送受信をする場合は、設定内容が無効となり、システム環境設定"u-DIEX"の暗号化の設定に従います。

4. 削除

メッセージスタに登録済みのデータを削除する場合があります。

A)データを削除する場合は、一覧表示から削除するデータを選択し [削除] ボタンをクリックします。

※削除する前にメッセージボックスが表示され、対象となるデータのメッセージ識別子の確認を行います。

※ [はい] を選択した場合は画面より削除を行い、 [いいえ] を選択した場合はキャンセルとなります。

※メッセージスタに登録済みのデータを削除する場合、更新処理を行った時点で

メッセージスタに反映されると共に、削除したデータに関連する情報がシステム内より削除されます。

5. 変更

メッセージスタに登録済みのデータを変更する場合があります。

メッセージ情報

メッセージ識別子 (*): TEXTFREE

アプリケーションフォーマット: TNS形式 TNS拡張形式 標準形式 自由形式

ファイルコード:

アプリケーション有効長:

ファイルタイプ拡張子 (*): txt

保存期間 (*): 10 (日)

コード変換: しない する

圧縮: しない する (DIEX授受のみ有効)

暗号化: しない する (DIEX授受のみ有効)

ヘッダー作成: しない する

変更 戻る

A)登録済みのデータを変更する場合は、一覧表示から変更するデータを選択し、 [変更] ボタンのクリックにより変更画面に遷移します。

B)変更画面にて、任意項目の変更を行います。

C)変更画面で入力後、 [変更] ボタンのクリックにより、一覧表示の対象行に変更後のデータが表示されます。

D)変更画面での入力項目、および指定項目は、【3. 新規登録】と同様の指定方法となります。

※メッセージスタに登録済みのデータを変更する場合、メッセージ識別子を変更すると

変更前のメッセージ識別子は削除処理を行われたデータと同様に扱われ、

更新処理を行った時に関連する情報がシステム内より削除されます。

6. 更新

メンテナンスを行った内容をメッセージマスタに反映する場合に行います。

- A)変更点（登録、変更、削除）をメッセージマスタに反映する場合は、[更新] ボタンをクリックします。
- ※メンテナンス作業（登録・削除・変更）が行われていない時は、[更新] ボタンがクリックできません。
 - ※更新処理を行う場合、メッセージマスタに反映されると共に、削除したデータに関連する情報がシステム内より削除されます。

7. 登録画面を終了したいとき

登録画面を終了したい場合は、[戻る] ボタンをクリックします。

8. 変更画面を終了したいとき

- 変更画面を終了したい場合は、[戻る] ボタンをクリックします。
- ※変更画面で「戻る」を実行した場合、変更中の入力内容は破棄されます。

9. メッセージマスタ設定画面を終了したいとき

- メッセージマスタ設定画面を終了したい場合は、[閉じる] ボタンをクリックします。
- ※メンテナンス作業（登録・削除・変更）が行われている場合は、メッセージボックスでメンテナンス内容を破棄して良いか確認を行います。
 - ※ [はい] を選択した場合は破棄され、[いいえ] を選択した場合は画面終了のキャンセルとなります。

2. 4. 2 アドレス帳マスタ設定

別名	ニックネーム	宛先	最終更新日
8489		O999.O999SE1	2018/11/30 14:08:10
8489002		O999.O999002	2018/04/05 13:34:45
8489006		O999.O999006	2019/01/11 17:20:40
8489SE1		O999.O999SE1	2018/03/13 09:16:51
8489SE2		O999.O999SE2	2019/09/13 10:24:45
8489SSS		O999SE1@UDCOM	2018/03/22 20:00:14
8489U05		O999.O999U05	2019/04/18 11:44:54

【機能概要】

- ・アドレス帳マスタの検索を行い、結果の一覧表示を行います。
- ・アドレス帳マスタのメンテナンス（登録・削除・変更・更新）作業を行います。

【運用手順】

- ①検索条件の指定を行い、登録済みのアドレス帳データの一覧表示を行います。
- ②メンテナンス作業（登録・削除・変更）を行います。
- ③メンテナンス内容を、アドレス帳マスタに反映を行います。

【操作説明】

- ・入力項目及び選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の検索条件指定

アドレス帳マスタに登録済みのデータを画面上に一覧表示する場合に、指定を行います。
指定した条件を全て満たしたデータが表示の対象となります。

A)別名は、任意の文字列を入力することにより指定を行います。

- ※検索条件に入力された別名の文字列と、アドレス帳マスタに登録されている別名の先頭より、文字列が一致するデータだけが表示対象となります。
- ※空白（未入力）の場合は、全てが対象となります。

B)ニックネームは、任意の文字列を入力することにより指定を行います。

- ※検索条件に入力されたニックネームの文字列と、アドレス帳マスタに登録されているニックネームの先頭より、文字列が一致するデータだけが表示対象となります。
- ※空白（未入力）の場合は、全てが対象となります。

C)宛先は、任意の文字列を入力することにより指定を行います。

※検索条件に入力された宛先の文字列と、アドレス帳マスタに登録されている宛先の先頭より、文字列が一致するデータだけが表示対象となります。

※空白（未入力）の場合は、全てが対象となります。

2. 一覧表示の検索指示

アドレス帳マスタに登録済みのデータを画面上に一覧表示する場合に行います。

A)指定済みの検索条件で登録済みのデータを表示する場合、[検索] ボタンのクリックにより、検索を開始して一覧表示を行います。

※新規登録の場合、一覧表示を行わずに作業を行うことができます。

※一覧表示は、別名の昇順に表示されます。

3. 新規登録

新規にデータを作成してアドレス帳マスタに登録する場合に行います。

新規データを作成する場合は [登録] ボタンのクリックにより、登録画面に遷移し、データの登録を行います。登録画面にて新規データの入力後、[登録] ボタンのクリックにより一覧表示の最終行に入力したデータが追加されます。

<設定項目>

項目	説明
別名	・宛先及び発信元を指定する時などに、アドレスを分かりやすくする為に設定します。 ※ 1～23文字で設定を行います。 ※ 全角文字、半角文字全てが入力可能です。 ※ 英文字の大文字と小文字は区別されます。
ニックネーム	・ニックネーム送受信または、デリバリーリスト送信を行う場合に使用するアドレスとして設定します。 ※ 1～23文字で設定を行います。

	<p>※半角英数字のみ入力可能です。</p> <p>※英文字は大文字のみ入力可能です。</p> <p>※ニックネームまたはデリバリーリストの設定は、固定形式 ('(XXXX).XXXXXXXXXXXXXXXXXX') に従って設定を行います。</p>
宛先	<p>・システムで使用する宛先の設定を行います。</p> <p>※プロセス ID の先頭 4 文字.プロセス ID7 文字 (OXXX.OXXXYYY)で入力します。</p> <p>※ 1 ~ 2 3 文字で設定を行います。</p> <p>※半角英数字のみ入力可能です。</p> <p>※英文字は大文字のみ入力可能です。</p> <p>※アドレス帳マスタから振分マスタを参照して、u-DIEX(汎用) に送信する場合は、参照する振分マスタのレコードと同じ内容の宛先を入力して下さい。</p>

4. 削除

アドレス帳マスタに登録済みのデータを削除する場合には行います。

A)データを削除する場合は、削除するデータを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

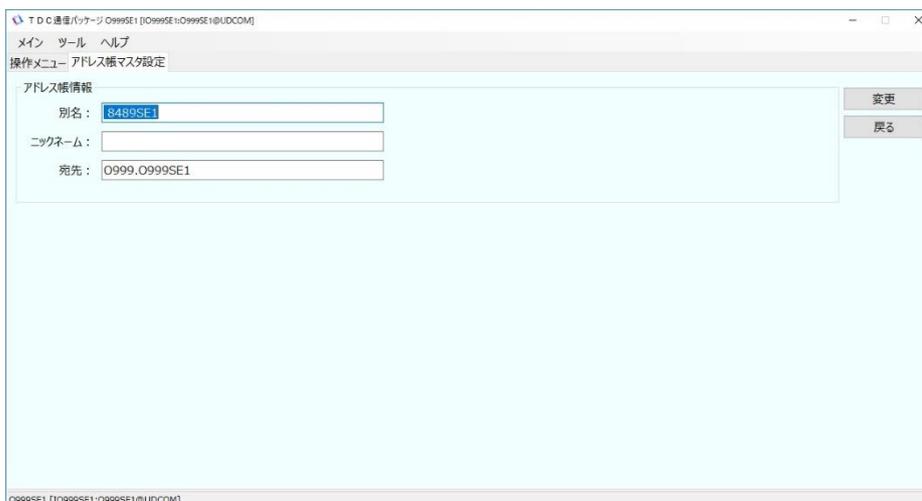
※削除する前に、対象データの内容確認を行うメッセージが表示されます。

※ [はい] を選択した場合は一覧表示から削除され、[いいえ] を選択した場合は削除処理をキャンセルします。

※アドレス帳マスタに登録済みのデータを削除した場合は、[更新] を行った後にアドレス帳マスタに反映されます。

5. 変更

アドレス帳マスタに登録済みのデータを変更する場合には行います。



A)登録済みのデータを変更する場合は一覧表示から対象データを選択し、
[変更] ボタンのクリックにより変更画面に遷移してデータの変更を行います。

B)変更画面で各項目を任意の値に変更します。

C)変更画面で入力後に [変更] ボタンのクリックにより、一覧表示の対象行のデータが変更されます。

D)変更画面の入力項目、及び指定項目は、「**3. 新規登録**」と同様の指定方法となります。

※アドレス帳マスタに登録済みのデータを変更した場合、[更新] を行った後にアドレス帳マスタに反映されます。

6. 更新

メンテナンスを行った内容をアドレス帳マスタに反映する場合に行います。

A)変更点（登録・削除・変更）をアドレス帳マスタに反映する場合は、[更新] ボタンのクリックにより反映を行います。

※メンテナンス作業（登録・削除・変更）が行われていない時は、更新は行えません。

7. 振分け設定

振分けマスタ設定画面を開きます。

A) [振分け設定] ボタンのクリックにより、振分けマスタ設定画面を開きます。

※振分けマスタ設定の詳細については、「[振分けマスタ設定](#)」の項目を参照して下さい。

8. 登録画面を終了する場合

[戻る] ボタンをクリックします。

9. 変更画面を終了する場合

[戻る] ボタンをクリックします。

※ [登録] ボタンをクリックせずに [戻る] ボタンをクリックした場合、変更内容は反映されません。

10. アドレス帳マスタ設定画面を終了する場合

[閉じる] ボタンをクリックします。

※ [更新] を行わずに閉じる場合は、メンテナンス内容を破棄して良いか確認を行います。

※ [はい] を選択した場合は画面を閉じ、[いいえ] を選択した場合は留まります。

2. 5 設定（ユーザー別）

2. 5. 1 スケジュールマスタ設定

サービス	起動スタイル	起動日時	メッセージ識別子	宛先/発信元	優先/通常
送信	スポット	2019年06月12日 10:00	ITNS002N	84895E1	優先
受信	スポット	2019年06月12日 10:05	ITNS002N	*	優先
受信	スポット	2019年06月12日 10:40	ITNS002N	*	優先
受信	スポット	2019年06月12日 10:51	ITNS002N	*	優先
受信	スポット	2019年06月12日 11:05	ITNS002N	*	優先
受信	スポット	2019年06月12日 11:40	ITNS002N	*	優先
受信	スポット	2019年06月12日 13:10	ITNS002N	*	優先
受信	スポット	2019年09月13日 11:12	TESTZZZ	*	通常

【機能概要】

- ・スケジュールマスタの検索を行い、結果の一覧表示を行います
- ・スケジュールマスタのメンテナンス（登録・削除・変更・更新）作業を行います。
- ・スケジュールマスタは、受信・送信・振分受信の登録を行うことができます。

【運用手順】

- ① 検索条件の指定を行い、登録済みのスケジュールマスタの一覧表示を行います。
- ② メンテナンス作業（新規登録・削除・変更）をサービス（受信・送信・振分受信）の種類によって行います。
- ③ メンテナンス内容を、スケジュールマスタに反映を行います。

受信スケジュール

- A) 受信スケジュールの情報として、起動スタイル・起動予定日時の指定を行います。
- B) 受信情報の指定として、メッセージ識別子・発信元・ファイルパス名・通常／優先の指定を行います。
- C) 受信オプションとして、ファイル統合の指定を行います。
- D) 登録により、一覧に表示を行います。

送信スケジュール

- A) 送信スケジュールの情報として、起動スタイル・起動予定日時の指定を行います。
- B) 送信情報の指定として、メッセージ識別子・宛先・アプリケーション有効長・アプリケーションフォーマット・ヘッダー作成・ファイルタイプ拡張子・ファイル名・通常／優先の指定を行います。
- C) 送信オプションとして、コード変換・圧縮・暗号化の指定を行います。
- D) 登録により、一覧に表示を行います。

振分受信スケジュール

- A) 振分受信スケジュールの情報として、起動スタイル・起動予定日時の指定を行います。
- B) 登録により、一覧に表示を行います。

【操作説明】

・入力項目 及び 選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の検索条件指定

・スケジュールマスタに登録済みのデータを一覧表示する場合に、指定を行います。

A)検索条件として、サービス内容の指定を行います。「全て」を指定した場合は全データが対象となり、「送信」・「受信」・「振分受信」のいずれかを指定した場合は、指定したサービスのみが対象となります。

2. 一覧表示の検索指示

・スケジュールマスタに登録済みのデータを一覧表示する場合に行います。

A)指定済みの検索条件で登録済みのデータを表示する場合、[検索] ボタンのクリックにより、検索を開始して一覧表示を行います。

※新規登録の場合、一覧表示を行わずに作業を行うことができます。

※一覧表示は、登録順に表示されます。

3. 新規登録



・新規データを作成してスケジュールマスタに登録する場合に行います。

A)新規データを作成する場合は、[登録] ボタンにより表示されるサービス選択ダイアログで、登録するサービスの種類を選択します。

B)サービス選択ダイアログで [受信] ・ [送信] ・ [振分受信] のいずれかのボタンをクリックし、各種登録画面で登録作業を行います。[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、サービス選択ダイアログが閉じられます。

4. 受信スケジュール新規登録

・受信スケジュールを新規に作成して、スケジュールマスタに登録する場合があります。

A)受信スケジュール登録画面で、新規に登録する受信スケジュールデータの入力後、画面上の「登録」ボタンのクリックにより、スケジュールマスタ画面の一覧表示の最終行に入力したデータが追加されます。

<設定項目>

《受信スケジュールの指定》

・スケジュールマスタによるファイル受信を行う場合の日時、または起動間隔を設定します。

項目	説明
起動スタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・選択ボタンのクリックにより表示される起動スタイル選択画面で指定を行います。 ・起動スタイルには「スポット」「月次」「週次」「日次」の4種類があります。 ・週次を指定した場合は、曜日（日・月・火・水・木・金・土）の選択も行います。 ・起動スタイルを選択後、[OK] ボタンを押すと起動スタイルが決定されます。 ・[キャンセル] ボタンを押すと起動スタイル選択画面は閉じられます。
起動予定日時	<ul style="list-style-type: none"> ・起動スタイルの指定を行った時に現在の日時が表示されます。変更が必要な項目を入力により修正を行います。 ※起動スタイルの指定により、指定可能な日時の項目が決定されます。 ※起動スタイルが「週次」の場合、曜日の変更をしたい時は再度起動スタイル選択画面で指定を行います。

	※起動スタイルが「スポット」の場合、現在の日時より過去を指定するとスケジュールマスタに反映した直後に起動されます。
--	---

<起動スタイルの説明と指定項目>

起動スタイル	説明	指定項目
スポット	指定した日時（年月日時分）に一度だけ起動され、以降起動されることはありません。	年・月・日・時・分
月次	毎月一度、指定した日時（日時分）に起動されます。	日・時・分
週次	毎週一度、指定した曜日の時間（時分）に起動されます。	時・分・曜日
日次	毎日一度、指定した時間（時分）に起動されます。	時・分

《受信設定の指定》

- ・受信するファイルの情報として、ファイルパス名の指定を行います。受信したファイルは指定したパスのディレクトリ内に保管されます。

項目	説明
メッセージ識別子	 <ul style="list-style-type: none"> ・任意の入力、または選択ボタンのクリックにより表示されるメッセージ識別子選択画面で指定を行います。 ・メッセージ識別子選択画面では、マウスでのダブルクリック、または Enter キーで対象の確定を行います。
発信元	 <ul style="list-style-type: none"> ・任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示される別名選択画面で指定を行います。 ・別名選択画面では、マウスでのダブルクリック、または Enter キーで対象の確定を行います。 ・未入力の場合は、全ての発信元が対象となります。 ・直接入力して指定する場合は、アドレス帳マスタに設定した別名・ニックネーム・宛先のいずれも指定可能です。

<p>ファイルパス名</p>	<div data-bbox="651 183 992 488" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 任意の入力、または「選択」ボタンのクリックにより表示されるファイルパス選択画面で指定を行います。 • ファイルパス選択画面では、マウスでのダブルクリック、または Enter キーで対象の確定を行います。 • ファイルパス名を入力した時は、終端文字として円記号（¥）を付加して下さい。 • 指定したフォルダパスが存在しない場合は、起動された時にディレクトリの自動作成は行わずにエラーとなります。
<p>ファイル統合</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 受信の対象となるファイルが複数存在した場合に、複数のファイルを1つのファイルに統合「する」「しない」の指定を行います。 • ファイル統合する場合は、一度の受信指示で受信したファイル全てが1つのファイルとして作成されます。
<p>通常／優先</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 受信指示を行った時にファイル受信の通常と同様に受信を行うか、または、優先的に受信を行うかの指定を行います。

《受信情報の指定》

- 「受信情報」の各項目は、メッセージ識別子を選択した際にメッセージマスタより自動で表示されるため、入力できません。

5. 送信スケジュール新規登録

- 送信スケジュールを新規に作成してスケジュールマスタに登録する場合に行います。

A)送信スケジュール登録画面で、新規に登録する送信スケジュールデータの入力後、画面上の
 [登録] ボタンのクリックにより、スケジュールマスタ設定画面の一覧表示の最終行に登録された
 データが追加されます。

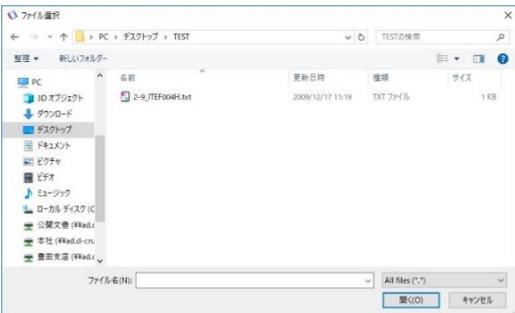
<設定項目>

《送信スケジュールの指定》

項目	説明
起動スタイル	・スケジュールマスタによるファイル送信を行う場合の日付、 または起動間隔を設定します。
起動予定日時	・送信スケジュールの設定は、【4. 受信スケジュール新規登録】の 設定項目で受信スケジュールの指定と同様に指定を行います。

《送信設定の指定》

- ・送信先の情報として、送信するファイルのメッセージ識別子と宛先の指定を行います。
- ・「送信情報」の各項目は、メッセージ識別子を選択した時に、メッセージマスタの該当する項目より
デフォルト値が表示されます。

項目	説明
メッセージ識別子	・任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示される メッセージ識別子選択画面で指定を行います。 メッセージ識別子選択画面では、マウスでのダブルクリック、 または Enter キーで対象の確定を行います。
宛先	・任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示される 別名選択画面で指定を行います。別名選択画面では、 マウスでのダブルクリック、または Enter キーで対象の確定を行います。 ・直接入力して指定する場合は、アドレス帳マスタに設定した 別名・ニックネーム・宛先のいずれも指定可能です。
ファイル名	 <p>・任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示される ファイル選択画面で指定を行います。 ・ファイル選択画面でディレクトリの選択は、マウスでのクリック、 またはカーソルキーで対象のディレクトリの選択を行うことができます。 ・選択されたディレクトリに格納されているファイル名は、一覧として 表示され、ファイル名をマウスでクリックまたは Enter キーで</p>

	<p>対象とするファイルの確定を行います。</p> <p>※ファイル名の拡張子を省略するとファイルタイプ拡張子で指定した拡張子がデフォルトとして使用され、送信ファイル名が作成されます。</p>
通常／優先	<p>・送信指示を行った時にファイル送信の通常と同様に送信を行うか、優先的に送信を行うかの指定を行います。</p>

《送信情報の指定》

- ・送信情報の指定では、ファイルを送信する時に行う処理の指定を行います。
- ・送信情報のコード変換・圧縮・暗号化は、メッセージ識別子を指定した時点でシステム内に登録されているメッセージスタの情報が表示されます。

項目	説明
アプリケーション有効長	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーションフォーマットの指定が「T N S形式」「T N S拡張形式」の場合のみ指定可能です。 ・「T N S形式」の時は2～250バイトで指定を行います。 ・「T N S拡張形式」の時は7～1000バイト、もしくはblank（未入力）で指定を行います。
フォーマット	<ul style="list-style-type: none"> ・「T N S形式」「T N S拡張形式」「標準形式」「自由形式」の4通りのフォーマットより選択して指定を行います。
ヘッダー作成	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーションフォーマットの指定が「T N S形式」「T N S拡張形式」の場合のみ指定可能です。 ・フォーマット変換を「する」「しない」の指定を行います。
ファイルタイプ拡張子	<ul style="list-style-type: none"> ・送信ファイルの拡張子を指定します。 ※ファイル名に拡張子が指定されている場合は、ファイル名の拡張子が優先となります。
コード変換	<ul style="list-style-type: none"> ・送信するファイルのコード変換を「する」「しない」の指定を行います。
圧縮	<ul style="list-style-type: none"> ・送信するファイルの圧縮を「する」「しない」の指定を行います。 ・u-DIEX(汎用)に送信する場合は、本設定は無効となります。 ・アプリケーション形式が「TNS形式」「TNS拡張形式」の場合は、設定内容に関わらず常にファイルが圧縮されます。
暗号化	<ul style="list-style-type: none"> ・送信するファイルの暗号化を「する」「しない」の指定を行います ・u-DIEX(汎用)に送信する場合は、本設定は無効となり、システム環境設定"u-DIEX"の暗号化の設定内容に従います。

6. 振分け受信スケジュール新規登録

・振分け受信スケジュールを新規に作成してスケジュールマスタに登録する場合があります。

A) 振分けスケジュール登録画面で、新規に登録する送信スケジュールデータの入力後、
[登録] ボタンのクリックにより、一覧表示の最終行に入力したデータが追加されます。

<設定項目>

《振分け受信スケジュールの指定》

項目	説明
起動スタイル	・スケジュールマスタによる振分け受信を行う場合の日付、または起動間隔を設定します。
起動予定日時	・振分け受信スケジュールの設定は、【4. 受信スケジュール新規登録】の設定項目で受信スケジュールの指定と同様に指定を行います。

7. 削除

・スケジュールマスタに登録済みのデータを削除する場合があります。

A) 登録済みのデータを削除する場合は、一覧表示から削除するデータを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

※ 削除する前にメッセージボックスを表示して確認を行います。

※ [はい] を選択した場合は画面より削除を行い、[いいえ] を選択した場合は削除のキャンセルとなります。

※ 登録済みのデータを削除する場合、[更新] ボタンをクリックしたときにスケジュールマスタに反映されます。

8. 変更

■ 受信スケジュール画面イメージ

受信スケジュール

起動スタイル(*) : スポット 選択

起動予定日時(*) : 2018年 08月 11日 15時 54分

受信設定

メッセージ識別子(*) : TEXTTEST 選択

発信元 : * 選択

ファイル/パス(*) : C:\Users\km3487e\Documents 選択

ファイル結合 : しない する

通常/優先 : 通常 優先

受信情報

アプリケーション有効長 : 0

アプリケーションフォーマット : 自由形式

ファイルタイプ拡張子 : txt

コード変換 : 無 圧縮 : 無 暗号化 : 無

■ 送信スケジュール画面イメージ

送信スケジュール

起動スタイル(*) : 毎月 選択

起動予定日時(*) : 年 月 10日 16時 09分

送信設定

メッセージ識別子(*) : TEXTFREE 選択

宛先 : B4895SS 選択

ファイル名(*) : C:\Users\ymasa-seo_za\Desktop\TEST#2-9_ITEF004H.txt 選択

通常/優先 : 通常 優先

送信情報

アプリケーション有効長 : 0

フォーマット : TNS形式 TNS拡張形式 標準形式 自由形式

ヘッダー作成 : しない する

ファイルタイプ拡張子(*) : txt

コード変換 : しない する

圧縮 : しない する

暗号化 : しない する

■ 振分け受信スケジュール画面イメージ

振分け受信スケジュール

起動スタイル(*) : 毎月 選択

起動予定日時(*) : 年 月 10日 16時 10分

- ・スケジュールマスタに登録済みのデータを変更する場合があります。

-
- A)登録済みのデータを変更する場合は、一覧表示から変更するデータを選択し、[変更] ボタンをクリックします。
- ※変更の対象となる一覧表示のデータが受信の場合は受信スケジュール変更画面、送信の場合は送信スケジュール変更画面、振分受信の場合は振分受信スケジュール変更画面が表示されます。
- B)各種スケジュール変更画面で、任意の項目の変更を行います。
- C)各種スケジュール変更画面にて変更箇所を入力後、[登録] ボタンのクリックにより、一覧表示の変更対象に変更後のデータが表示されます。
- D)受信・送信・振分け受信スケジュール変更画面での入力項目は、各画面の新規登録と同様の指定方法となります。
- ※スケジュールマスタに登録済みのデータを変更する場合、[更新] ボタンをクリックしたときにスケジュールマスタに反映されます。

9. 複製

- ・スケジュールマスタに登録済みのデータを複製する場合に行います。
- A)登録済みのデータを複製する場合は、一覧表示から複製するデータを選択し、[複製] ボタンをクリックします。
- ※複製の対象となる一覧表示のデータが受信の場合は受信スケジュール登録画面、送信の場合は送信スケジュール登録画面、振分受信の場合は振分受信スケジュール登録画面が表示されます。
- B)各種スケジュール登録画面で、任意の項目の変更を行います。
- C)各種スケジュール登録画面にて変更箇所を入力後、[登録] ボタンのクリックにより、一覧表示の最終行に入力したデータが追加されます。
- D)受信・送信・振分け受信スケジュール登録画面での入力項目は、各画面の新規登録と同様の指定方法となります。

10. 更新

- ・メンテナンスを行った内容をスケジュールマスタに反映する場合に行います。
- A)メンテナンス内容をスケジュールマスタに反映する場合は、[更新] ボタンをクリックします。
- ※メンテナンス作業（登録・削除・変更）が行われていない時は、[更新] ボタンがクリックできません。

1 1. 各種（受信・送信・振分け受信）スケジュール登録画面を終了したい時

- ・各種スケジュール登録画面を終了したい場合は、[戻る] ボタンをクリックします。

1 2. 各種（受信・送信・振分け受信）スケジュール変更画面を終了したい時

- ・各種スケジュール登録画面を終了したい場合は、[戻る] ボタンをクリックします。
- ・スケジュールマスタ変更画面で [戻る] を実行した場合、入力中の内容は破棄されます。

1 3. スケジュールマスタ設定画面を終了したい時

- ・ [閉じる] ボタンをクリックします。
- ・メンテナンス作業が行われている場合は、メッセージボックスにて、メンテナンス内容を破棄して良いか確認を行います。
- ・ [はい] を選択した場合は破棄され、[いいえ] を選択した場合は画面終了のキャンセルとなります。

1 4. スケジュール変更時の留意点

- ・送信スケジュールの変更をする際は以下の事に注意して変更して下さい。

A)システム停止中での変更作業は行わないで下さい。(正常にマスタへ反映されません)

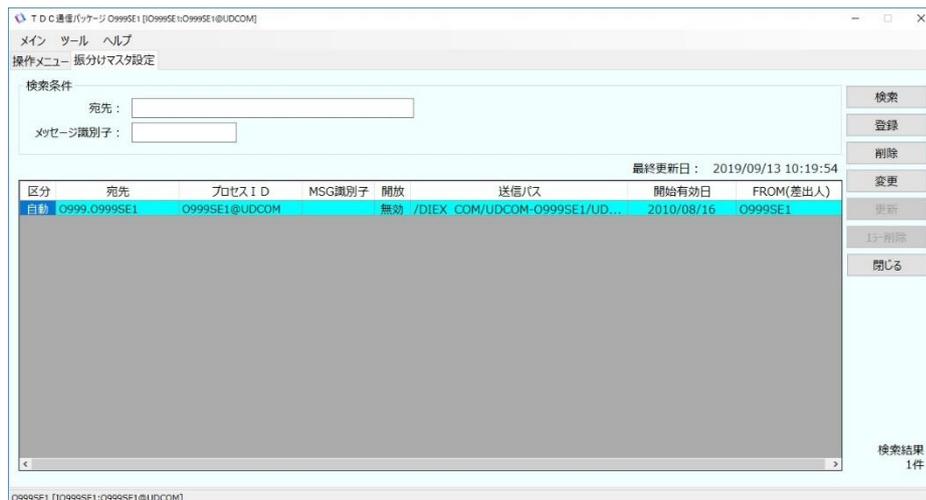
B)スケジュール起動後にスケジュール変更した場合、同一ファイルを再度送信することになり、2重送信となる為、事前に送信ファイルを削除してスケジュールの変更を行って下さい。

例) 毎日 AM 10 : 00 に「ABC」ファイルを送信セットしてある場合に、AM 10 : 30 に「AM 11 : 00」に時刻変更を行ったとすると

- 1) AM 10 : 00 「ABC」ファイルを送信
- 2) AM 10 : 30 タイマーセット時刻を「AM 11 : 00」に変更
- 3) AM 11 : 00 「ABC」ファイルを送信

となってしまう、「ABC」ファイルを2度送信してしまう事になります。

2. 5. 2 振分けマスタ設定



【機能概要】

- ・振分けマスタの検索を行い、結果の一覧表示を行います。
- ・振分けマスタのメンテナンス(登録・削除・変更・更新・エラー削除)を行います。
- ・ファイル送信時に指定したアドレス帳マスタの宛先と同じ宛先を持つデータが振分けマスタに存在する場合、その内容に基づきファイルを u-DIEX(汎用)に送信します。

【運用手順】

- ① 検索条件の指定を行い、登録済みの振分けデータの一覧表示を行います。
- ② メンテナンス作業(登録・削除・変更・更新・エラー削除)を行います。
- ③ メンテナンス内容の振分けマスタへの反映を行います。
 - ※ 振分けマスタに登録済みのデータを削除する場合、更新処理を行った時に振分けマスタに反映されると共に、削除したデータに関連する情報がシステム内より削除されます。
 - ※ 振分けマスタに登録済みのデータを変更する場合、宛先を変更すると変更前の宛先は削除処理を行われたデータと同様に扱われ、更新処理を行ったときに関連する情報がシステム内より削除されます。

【操作説明】

- ・入力項目及び選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の検索条件指定

メッセージマスタに登録済みのデータを画面上に一覧表示する場合に、指定を行います。

A) 宛先は、任意の文字列を入力することにより指定を行います。

※ 検索条件に入力された宛先の文字列と、メッセージマスタに登録されている宛先の先頭より、文字列が一致するデータだけが表示対象となります。

※ ブランク（未入力）の場合は、全てが対象となります。

B)メッセージ識別子は、任意の文字列を入力することにより指定を行います。

※検索条件に入力されたメッセージ識別子の文字列と、メッセージマスタに登録されている

メッセージ識別子の先頭より、文字列が一致するデータだけが表示対象となります。

※空白（未入力）の場合は、全てが対象となります。

2. 一覧表示の検索指示

振分けマスタに登録済みのデータを画面上に一覧表示する場合に行います。

A)指定済みの検索条件で登録済みのデータを表示する場合、[検索] ボタンのクリックにより、検索を開始して一覧表示を行います。

※新規登録の場合、一覧表示を行わずに作業を行うことができます。

※一覧表示は宛先の昇順に表示されます。

※一覧表示には、現在ログインしているユーザーが発信元となっているデータのみが表示されます。

（他のユーザーが発信元となっているデータを確認したい場合は、検索するユーザーでログインし直してから実行して下さい。）

※区分欄には、振分け情報受信時に受信した情報に基づき自動的に作成されたデータは「自動」、自分で入力して作成したデータは「手動」と表示されます。

3. 新規登録

新規にデータを作成して振分けマスタに登録する場合に行います。

※振分け情報受信指示により、振分けマスタに必要な情報は自動的に登録されるため、基本的に新規登録する必要はありません。

※ただし、振分けマスタに登録されたユーザーの宛先がアドレス帳マスタに登録されていない場合は、アドレス帳マスタに追加して下さい。

A)新規にデータを作成し登録する場合は、[登録] ボタンのクリックにより登録画面に遷移します。

B)登録画面で各項目の入力後、[登録] ボタンのクリックにより、一覧表示の最終行に入力したデータが追加されます。

<設定項目>

項目	説明
宛先	 <p>u-DIEX(汎用)上の送信したい相手の宛先を指定します。</p> <p>※任意の入力、また選択ボタンのクリックにより表示される宛先選択画面で指定を行います。</p> <p>※宛先選択画面では、マウスのダブルクリック、または Enter キーで対象の確定を行います。</p> <p>※宛先はアドレス帳マスタに登録されている宛先の中から選択して下さい。</p>
プロセス ID	<p>送信先のユーザーのプロセス ID を指定します。</p> <p>※英文字は大文字と小文字が区別されます。</p> <p>※宛先に送信先のユーザーのプロセス ID を設定した場合は、プロセス ID に同じ値を入力してください。</p>
メッセージ識別子	 <p>特定のメッセージ識別子のみ送信パスを変更したい場合に、メッセージ識別子を指定します。</p> <p>※ブランク（未入力）の場合はすべてのメッセージ識別子が対象となります。</p> <p>※任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示されるメッセージ識別子選択画面で指定を行います。</p> <p>※メッセージ識別子選択画面では、マウスでのダブルクリック、または Enter キーで対象の確定を行います。</p> <p>※同じ宛先、プロセス ID であっても、異なるメッセージ識別子を指定する事によってそれぞれに指定した送信パスへファイルが送信されます。</p>
開放先指定フラグ	<p>送信ファイルの開放先を指定します。</p> <p>※有効・無効を選択します。</p> <p>※通常は無効を選択して下さい。</p>
送信パス	<p>振分け対象データの u-DIEX(汎用)の送信パスを指定します。</p> <p>※存在しないパス、またはアクセス権のないパスを指定した場合、送信時にエラーとなります。</p>

開始有効日	<p>振分けデータが有効となる開始日を指定します。</p> <p>※開始有効日がシステムの日付と同じ、又はそれ以前のデータのみ設定内容が有効となります。</p> <p>※開始有効日を指定しない場合は、システムの日付に関係なく常に有効となります。</p>
-------	--

4. 削除

振分けマスタに登録済みのデータを削除する場合に行います。

A)登録済みのデータを削除する場合は、一覧表示から削除するデータを選択し、

[削除] ボタンをクリックします。

※削除する前にメッセージボックスが表示され、対象となるデータの内容を確認します。

([はい] を選択した場合は画面より削除を行い、 [いいえ] を選択した場合は削除のキャンセルとなります。)

※振分けマスタに登録済みのデータを削除する場合、更新処理を行った時に振分けマスタに反映されます。

5. 変更

振分けマスタに登録済みのデータを変更する場合に行います。

A)登録済みのデータを変更する場合は、[変更] ボタンのクリックにより変更画面に遷移します。

B)変更画面で、任意の項目の変更を行います。

※振分けマスタ変更画面での入力項目及び指定項目は、【3. 新規登録】と同様の指定方法となります。

C)変更箇所入力完了後、[登録] ボタンのクリックにより、一覧表示の変更対象行に変更後のデータが表示されます。

-
- ※振分けマスタに登録済みのデータを変更する場合、更新処理を行った時に振分けマスタに反映されます。
 - ※「自動」データは、開放先指定フラグのみ変更可能です。
 - ※エラーデータは全ての項目が変更不可です。

6. エラー削除

振分け情報受信時に発生したエラーデータを削除します。

A)エラーデータを削除する場合は、[エラー削除] ボタンをクリックします。

※削除する前にメッセージボックスが表示され、確認を行います。

([はい] を選択した場合、エラーデータは全て画面より削除され、
[いいえ] を選択した場合は、エラー削除のキャンセルとなります。)

※エラー削除を行った場合、更新処理を行った時に振分けマスタに反映されます。

※振分け情報受信時に振分け情報と同じ手動データが存在した場合、手動データが優先され、
振分け情報データはエラーとなり、無効データとなります。

2. 6 その他

2. 6. 1 転送結果検索

指示日時	メッセージ識別子	発信元	優先/通常	コマンド	終了日時	ステータス
2019/10/02 09:16:14	*	*	優先	蓄積状況	2019/10/02 09:16:21	000-000
2019/10/02 09:15:49	TAPLTF1	84895E1	優先	送信	2019/10/02 09:15:52	000-000
2019/10/02 09:14:14	TAPLTF1	84895E1	優先	送信	2019/10/02 09:14:17	000-000
2019/10/02 09:13:44	TAPLTF1	84895E1	優先	送信	2019/10/02 09:13:47	000-000
2019/10/02 09:11:40	TAPLTF1	84895E1	優先	送信	2019/10/02 09:12:26	000-000
2019/10/02 09:11:35			優先	状況確認	2019/10/02 09:12:10	901-000
2019/10/02 09:08:25	TAPLTF1	84895E1	優先	送信	2019/10/02 09:08:25	140-022
2019/10/02 09:06:32	TAPLTF1	84895E1	優先	送信	2019/10/02 09:06:32	140-022
2019/10/02 09:05:10	TAPLTF1	84895E1	優先	送信	2019/10/02 09:05:10	140-022
2019/10/01 16:05:10	*	*	優先	蓄積状況	2019/10/01 16:06:03	000-000
2019/10/01 16:05:08			優先	状況確認	2019/10/01 16:05:52	901-000

【機能概要】

- ・転送制御ログ情報の検索を行い、結果の一覧表示を行います。
- ・検索条件は、メッセージ識別子・発信元／宛先・日付・要求種別の指定で行います。

【運用手順】

- ① 検索条件の指定を行い、転送制御ログ情報の一覧表示を行います。

【操作説明】

- ・入力項目及び選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の検索条件指定

転送制御ログ情報を画面上に一覧表示する為の検索条件は、メッセージ識別子・発信元／宛先・日付・要求種別で指定を行います。指定した条件を全て満たした転送指示が表示の対象となります。

A)メッセージ識別子は、任意の入力又は「選択」ボタンのクリックにより表示されるメッセージ識別子選択ダイアログから選択します。メッセージ識別子選択ダイアログでは、マウスでのダブルクリック、または Enter キーで対象の確定を行います。

※メッセージ識別子の一致する転送指示が表示の対象となります。

※空白（未入力）の場合は、全てが対象となります。



- B)発信元／宛先は、任意の入力、または [選択] ボタンのクリックにより表示される別名選択ダイアログから選択します。別名選択ダイアログでは、マウスでのクリック、または Enter キーで対象の確定を行います。
 ※発信元又は宛先で一致する情報が表示の対象となります。
 ※空白（未入力）の場合は、全てが対象となります。



- C)日付指定は、以下の3通りの方法より指定が可能です。

a)検索対象期間の開始日時・終了日時の指定による検索

開始日時と終了日時の指定を行い、その間に行われた転送指示が表示の対象となります。
 ※初期表示は、開始日時は当日の 0:00、終了日時は翌日の 0:00 が表示されます。

b)現在より過去の日数による検索

現在から過去の日数の指定を行い、その間に行われた転送指示が表示の対象となります。
 ※入力可能な日数は 1～999 日です。

c)現在より過去の時間数による検索

現在から過去の時間数の指定を行い、その間に行われた転送指示が表示の対象となります。
 ※入力可能な時間数は 1～999 時間です。

- D)要求種別は、任意の指定でチェックした項目を検索の対象とします。

チェックの組み合わせにより検索対象が決定します。

<要求種別の指定による検索条件>

受信	送信	エラー	条件
無	無	無	全ての結果が対象
チェック	無	無	受信結果・受信エラーが対象
無	チェック	無	送信結果・送信エラーが対象
無	無	チェック	全てのエラーが対象
チェック	チェック	無	受信・送信結果、受信・送信エラーが対象
チェック	無	チェック	受信エラーのみが対象
無	チェック	チェック	送信エラーのみが対象
チェック	チェック	チェック	送信・受信のエラーが対象

2. 一覧表示の検索指示

指定済みの検索条件で過去に行った転送情報を画面上に一覧表示する場合に指示を行います。

A) [検索] ボタンのクリックにより、検索を開始して一覧表示を行います。

- ※一覧表示された転送情報に対して、マウスでのダブルクリック、または Enter キーにより、応答メッセージを確認できます。

3. 詳細指示

[詳細] ボタンのクリックにより、詳細情報画面に遷移し、一覧表示している転送情報の内容を確認できます。



A) 詳細情報画面で初期表示の対象になるデータは、一覧表示で現在選択されている行のデータです

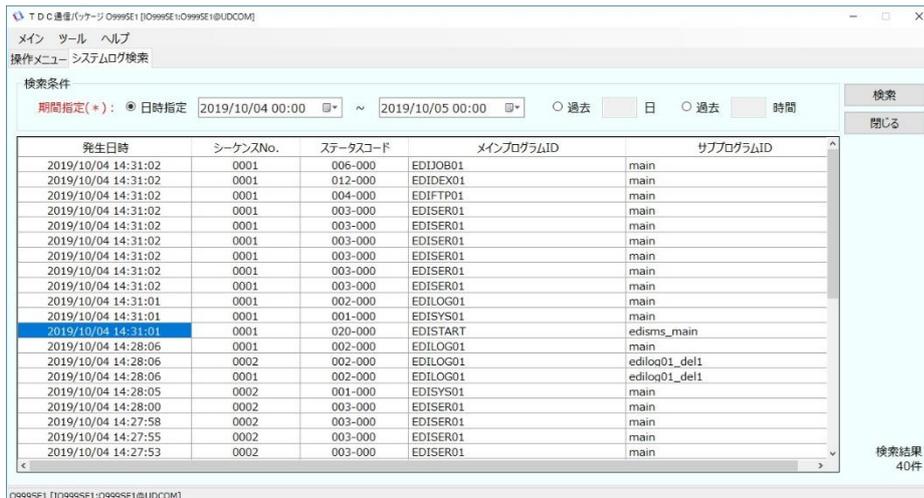
- ※ [次データ] ボタンのクリックにより、一覧表示の次のデータを表示します。
- ※ [前データ] ボタンのクリックにより、一覧表示の前のデータを表示します。
- ※一覧表示されていない状態では、[詳細] ボタンをクリックできません。

B) 詳細情報画面を終了したい場合は、[戻る] ボタンをクリックします。

4. 転送結果検索画面を終了したい時

転送結果検索画面を終了したい場合は、[閉じる] ボタンをクリックします。

2. 6. 2 システムログ検索



【機能概要】

- ・システムログ情報の検索を行い、結果の一覧表示を行います。
- ・検索条件は、日時の指定で行います。

【運用手順】

- ① 検索条件の指定を行い、システムログ情報の一覧表示を行います。

【操作説明】

- ・入力項目及び選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の検索条件指定

- ・システムログ情報を画面上に一覧表示する為の検索条件は、日付指定で行います。
- ・日付指定は、以下の3通りの方法より指定が可能です。

A) 開始日時・終了日時の指定による検索

開始日時 及び 終了日時を指定することにより、その間に該当するシステムログ情報が表示の対象となります。

※初期表示は、開始日時は当日の 0:00、終了日時は翌日の 0:00 が表示されます。

B) 現在より過去の時間数による検索

現在から、過去の時間数を指定することにより、その間に該当するシステムログ情報が表示の対象となります。入力可能な時間数は 1～999 時間です。

C) 現在より過去の日数による検索

現在から、過去の日数を指定することにより、その間に該当するシステムログ情報が表示の対象となります。入力可能な日数は 1～999 日です。

2. 一覧表示の検索指示

- ・指定済みの検索条件でシステムログ情報を表示する場合、マウスでシステムログ検索画面上の [検索] ボタンのクリックにより、検索を開始して一覧表示を行います。
- ・表示されているシステムログ情報に対して、一覧上にあるデータ行の任意の場所をマウスでダブルクリック 又は Enter キーでステータスの情報を表示することができます。

3. 画面を終了したい時

- ・システムログ検索画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [閉じる] ボタンのクリックにより終了を行います。

2. 6. 3 システム監視

ユーザー	プロセス名称	起動状態	起動/停止日時	接続状態	接続開始日時	受付可能件数
	EDISYS01	起動中	2019/10/04 14:44:24	OK		
	EDILOG01	起動中	2019/10/04 14:44:24	OK		8
O999002	EDISER01	起動中	2019/10/04 14:44:24	OK		1
O999301	EDISER01	起動中	2019/10/04 14:44:25	OK		1
O999FAX	EDISER01	起動中	2019/10/04 14:44:25	OK		1
O999001	EDISER01	起動中	2019/10/04 14:44:25	OK		1
O999SE1	EDISER01	起動中	2019/10/04 14:44:25	OK		1
O999U05	EDISER01	起動中	2019/10/04 14:44:25	OK		1
	EDIIFTP01	起動中	2019/10/04 14:44:25	OK		15
	EDIDEX01	起動中	2019/10/04 14:44:25	OK		30
	EDIJOB01	起動中	2019/10/04 14:44:25	OK		600

【機能概要】

- ・システムのプロセス情報 及び 処理要求情報を問い合わせ、結果の一覧表示を行います。
- ・問い合わせの種類（プロセス情報又は処理要求情報）により、一覧表示内容の変更を行います。

【運用手順】

- ①プロセス情報 又は 処理要求情報の指定を行い、問い合わせ結果の一覧表示を行います。

【操作説明】

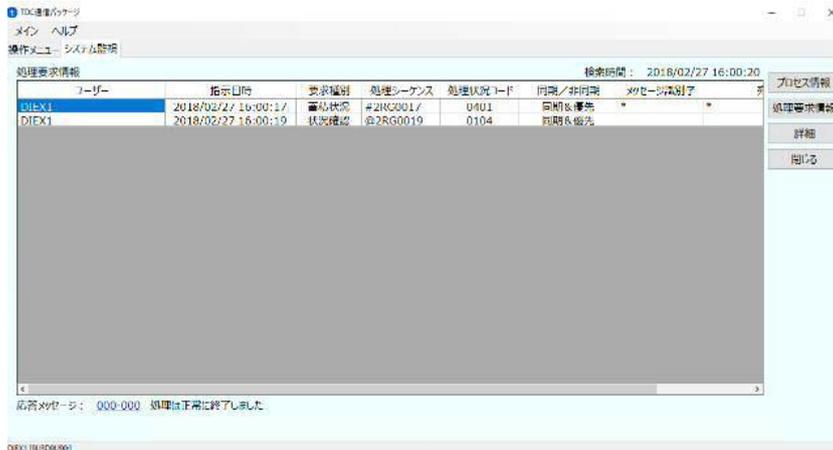
- ・選択項目についての指定方法を説明します。

1. プロセス情報一覧表示の検索指示

- ・システムのプロセス情報を表示する場合、マウスでシステム監視画面上の [プロセス情報] ボタンのクリックにより、問い合わせを開始し一覧表示を行います。
- ※問い合わせの結果を、画面上に一覧表示をします。その時に、参照時間と表示モード(プロセス情報)の表示も行います。
- ※プロセス情報の取得完了後に、取得結果を画面下部の応答メッセージにステータスとメッセージが表示されます。

2. 処理要求情報一覧表示の検索指示

- ・システムの処理要求情報を表示する場合、マウスでシステム監視画面上の [処理要求情報] ボタンのクリックにより、問い合わせを開始して一覧表示を行います。
- ※問い合わせの結果を、画面上に一覧表示します。その時に、参照時間と表示モード(処理要求情報)の表示も行います。
- ※プロセス情報の取得完了後に、取得結果として画面下部の応答メッセージにステータスとメッセージが表示されます。



3. 処理要求情報の詳細表示

- ・システム監視画面上の [詳細表示] ボタンのクリックにより、画面上に一覧表示しているデータの詳細を詳細情報画面 (別画面) に表示します。



- ・詳細情報画面で初期表示の対象になるデータは、一覧表示で現在選択されている行のデータです。
[次データ] ボタンのクリックにより、一覧表示の次のデータを表示します。[前データ] ボタンのクリックにより一覧表示の前のデータを表示します。
- ※一覧表示されていない状態での詳細情報表示は不可となります。
- ・詳細情報画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [戻る] ボタンのクリックにより終了を行います。

4. 画面を終了したい時

- ・システム監視画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [閉じる] ボタンのクリックにより終了を行います。

2. 6. 4 要求取り消し



【機能概要】

- ・処理要求の情報を問い合わせ、結果の一覧表示を行います。
- ・要求取り消しの対象とする処理要求を指定し、取り消しの指示を行います。

【運用手順】

- ① 処理要求の情報を問い合わせ、現在蓄積されている要求の一覧表示を行います。
- ② 問い合わせ結果が応答メッセージに表示されます。
- ③ 一覧表示された処理要求より、要求取り消しの対象とする要求の指定を行います。（複数指定可）
- ④ 取り消し指示結果が、一覧表示の要求取り消しの欄に表示されます。

【操作説明】

- ・入力項目 及び 選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示の検索指示

- ・処理要求情報を表示する場合、マウスでの [検索] ボタンのクリックにより、問い合わせを開始して一覧表示を行います。
 - ※問い合わせの結果を、画面上に一覧表示します。その時に、検索時間の表示も行います。
 - ※プロセス情報の取得完了後に、取得結果として応答メッセージにステータスとメッセージが表示されます。

2. 要求取り消しの指定

- ・要求取り消しの指定は、蓄積されている処理要求を表示した画面上の一覧表示より選択により行います。
 - A) 指定の方法は、処理要求表示の一覧より、要求取り消しを行う処理要求データ行の要求取り消しの欄をマウスでダブルクリックし、指定を行います。
 - 要求取り消しの欄に 'Y' が表示されている処理要求が要求取り消しの対象となります。
 - ※指定済みで 'Y' が表示されている処理要求を、再度指定することにより 指定のキャンセルとなります。

3. 要求取り消し指示

- 要求取り消しを指示したい場合は、マウスでの [取り消し] ボタンのクリックにより行います。
 - ※ 要求取り消しの完了後に、要求取り消し指示結果として一覧表示の要求取り消しの欄にステータスが表示されます。

4. 詳細指示

- [詳細表示] ボタンの選択により、画面上に一覧表示している転送情報の詳細を詳細情報画面に表示します。
- 詳細情報画面で初期表示の対象になるデータは、一覧表示で現在選択されている行のデータです。
 - ※ [次データ] ボタンのクリックにより、次のデータが存在する場合は一覧表示の次のデータを表示します。
 - ※ [前データ] ボタンのクリックにより、前のデータが存在する場合は一覧表示の前のデータを表示します。
 - ※ 一覧表示されていない状態での詳細情報表示はできません。



5. 詳細情報画面を終了したい時

- 詳細情報画面を終了したい場合は、マウスで [戻る] ボタンのクリックにより終了を行います。

6. 要求取り消し画面を終了したい時

- 要求取り消し画面を終了したい場合は、マウスで [閉じる] ボタンのクリックにより終了を行います。

2. 6.5 エラーコード一覧

エラーコード	エラーメッセージ	想定される原因
754-052	ゲート線リファクトのリファクト作成に失敗しました	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。
754-053	ゲート線リファクトのアドレス割付に失敗しました	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。
754-058	ゲート線リファクトの接続許可準備に失敗しました	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。
754-05A	ゲート線リファクトに接続してきたゲートワイヤのリファクト情報の取出し処理で異常が発生しました。(H-08)	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。
754-05B	ゲート線リファクトでのリファクト受信処理で異常が発生しました	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。
754-05C	ゲート線リファクトでのリファクト送信処理で異常が発生しました	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。
754-05F	ゲート線リファクトの受信処理で、ゲートワイヤからのデータ受信を一定時間待ったが、受信出来ませんでした。(ソフトウェア)	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。
754-102	ゲート線リファクトを作成する為のアドレスNo.の検索処理で異常が発生しました	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。
754-103	ゲート線リファクトを作成する為のアドレス情報の検索処理で異常が発生しました	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。
754-104	転送データを保存するためのワークファイルの作成で異常が発生しました。(受信処理系)	システムまたはハードウェアに障害が発生。システムまたは端末を再起動して下さい。
754-105	指定時間待ったが、ゲートワイヤからのリファクトへの接続処理を行わないので処理を中断しました。(ソフトウェア)	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。
754-106	ゲートワイヤへ転送する送信ファイルからのデータ送込処理で異常が発生しました	システムまたはハードウェアに障害が発生。システムまたは端末を再起動して下さい。
754-107	ゲートワイヤからの受信予定データと実受信データのリンクがズレています。(受信処理系)(ソフトウェア)	ハードウェア、電話回線またはソフトウェア、ゲートワイヤを再確認して下さい。

【機能概要】

- ・エラーコードからエラーメッセージ、想定される原因を表示します。

【運用手順】

- ①エラーコードを条件に一覧を検索します。

【操作説明】

- ・検索条件に検索対象のエラーコードを入力します。

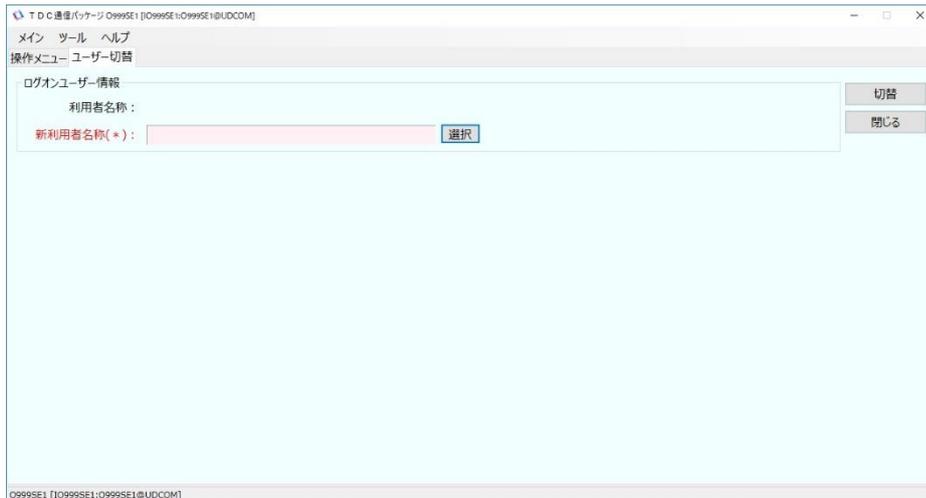
1. 検索

- ・検索条件に指定されたエラーコードを前方一致で検索します。
 - ※未入力の場合はエラーコードを全件表示します。
 - ※エラーコードは、“XXX-XXX”の形式です。

2. 画面を終了したい時

- ・エラーコード一覧画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [閉じる] ボタンのクリックにより終了を行います。

2.7 ユーザー切替



【機能概要】

- ・システムを使用する利用者の指定を選択により行います。

【運用手順】

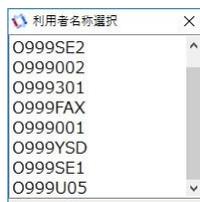
- ①画面起動時に、現在設定されている利用者名称が画面に表示されます。
 - ②新利用者の選択後、変更を行います。
- ※システム内では利用者毎に情報が管理されます。他の端末と利用者が重複しない様に選択を行って下さい。

【操作説明】

- ・選択項目の指定方法を説明します。

1. 新利用者名称指定

- ・新利用者は、ユーザー切替画面上の選択ボタンの押下により表示される利用者名称選択画面で指定を行います。
- ・利用者名称選択画面では、マウスでのダブルクリック 又は Enter キーの押下で利用者の確定を行います。



2. 変更

- ・新利用者名称の欄に指定した利用者でシステムのログオンユーザー情報の変更を指示する場合は、マウスでの [切替] ボタンをクリックします。
- ※以降は変更後の利用者で指示が行われます。

3. ユーザー切替画面を終了したい時

- ・ユーザー切替画面を終了したい場合は、マウスでの [閉じる] ボタンをクリックします。

3. システム管理メニュー



【機能概要】

- ・システムの起動／停止、ユーザー登録、システム環境の設定など、システムに関する各機能を選択します。

【運用手順】

- ①実施する機能を押下します。
- ②システム管理メニューを終了する場合は、[閉じる] を押下します。

【操作説明】

- システム運用
 - ◆ [システム起動・停止](#)
 - ・TDC 通信パッケージのシステム起動、システム停止を手動で行います。
 - ◆ [パスワード設定](#)
 - ・u-DIEX(汎用)ユーザーの本パスワード登録を行います。
 - ◆ [振分け情報受信](#)
 - ・u-DIEX(汎用)より振分け情報を受信し振分けマスタに反映します。
- 環境設定
 - ◆ [システム環境設定](#)
 - ・TDC 通信パッケージの各種システム環境設定を管理します。
 - ◆ [ユーザー登録](#)
 - ・TDC 通信パッケージを利用するユーザー情報を管理します。
- 閉じる
 - ・システム管理メニューを閉じます。

3. 1 システム運用

3. 1. 1 システム起動・停止



【機能概要】

- ・システムを手動で起動・停止します。
- ※TDC 通信パッケージでのファイル送受信を行うための各種常駐プロセスを起動、停止します。
- ※システムの自動起動を設定している場合は、端末の起動時にここで起動を行う必要はありません。

【運用手順】

- ①システム（コントローラプロセス）の起動を行います。
- ②システム（コントローラプロセス）の停止を行います。

【操作説明】

- ・システムの運用を行う際、通常は最初にシステムの起動を行います。

A)サービス起動

- ・システムを Windows サービスとして起動します。
- ・送信するファイルの存在するフォルダや受信先に指定しているフォルダがネットワーク上でない場合は、基本的には、こちらの起動方法となります。
- ※端末のシャットダウン時にシステムが起動されたままだった場合は、自動的にシステム停止が行われます。但し、Windows にログインしているユーザーがサインアウトしてもシステム停止は行われません。

B)ローカル起動

- ・システムを Windows にログインしているユーザーのプロセスとして起動します。
- ・送信するファイルの存在するフォルダや受信先に指定しているフォルダがネットワーク上である場合は、こちらの起動方法でなければなりません。
- ※端末のシャットダウン時にシステムが起動されたままだった場合は、自動的にシステム停止が行われます。また、Windows にログインしているユーザーがサインアウトした場合も、

自動的にシステム停止が行われます。

- ・システムの運用を終了する際、最後にシステムの停止を行います。
※システム停止後、再度運用を行う場合はシステム起動を行って下さい。

1. システムのサービス起動

- ・ [サービス起動] ボタンのクリックにより行います。
※システム起動の完了時に、起動結果としてメッセージボックスが表示されます。



※システムが起動されている状態で、再度起動処理を行うとエラーとなります。

2. システムのローカル起動

- ・ [ローカル起動] ボタンのクリックにより行います。
※システム起動の完了時に、起動結果としてメッセージボックスが表示されます。



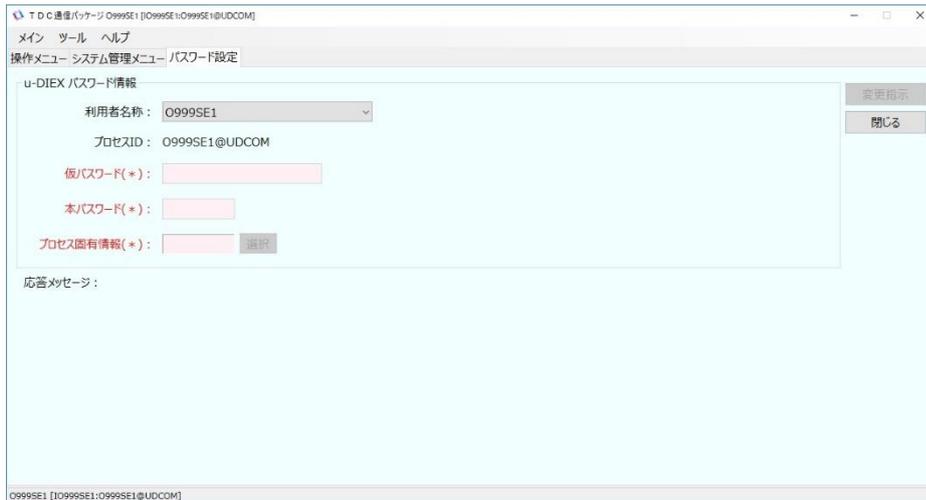
※システムが起動されている状態で、再度起動処理を行うとエラーとなります。

3. システムの停止

- ・ [停止] ボタンのクリックにより行います。
※システム停止の完了時に、停止結果としてメッセージボックスが表示されます。



3. 1. 2 パスワード設定



【機能概要】

- ・u-DIEX(汎用)ユーザー登録後の初起動時にのみ 仮パスワードと本パスワード、プロセス固有情報を指定し、設定します。
 - ・設定後 u-DIEX パスワードの変更はできません。
- ※u-DIEX パスワード未設定の状態では、u-DIEX(汎用)の機能は使用できません。
- ※変更指示が正常に行われると以降は変更後のパスワード（本パスワード）が使用されます。
- ※u-DIEX パスワードは、初回設定時に設定が行われると、以降パスワードの変更はできません。
- パスワードを打ち間違えたり、登録したパスワードを忘れていたりすることのないようご注意ください。

【運用手順】

- ①パスワード設定では、u-DIEX(汎用)センターと通信を行いますので、システム起動していない場合は、システム起動します。
- ②画面起動時に、全 u-DIEX(汎用)ユーザーの利用者名称が画面に表示されます。
- ③利用者名称を選択後、u-DIEX(汎用)の仮パスワード・本パスワードを入力し、プロセス固有情報の設定を行います。
- ④変更指示を行います。

【操作説明】

- ・指定方法を説明します。

1. パスワード変更指示

- ・パスワード設定画面で、仮パスワード、本パスワード、プロセス固有情報の入力後、画面上の [変更指示] ボタンのクリックにより、u-DIEX(汎用)センターに設定した本パスワードが送られ登録されます。

<設定項目>

《u-DIEX パスワード情報》

項目	説明
利用者名称	<ul style="list-style-type: none">・パスワード設定する利用者を指定します。・利用者を変更する場合は、右の [▼] をクリックし、登録されている全 u-DIEX(汎用)ユーザーの利用者名称より選択します。 ※名称の直接入力は不可です。
プロセス ID	<ul style="list-style-type: none">・プロセス ID は、現在選択している利用者名称のプロセス ID を表示します。
仮パスワード	<ul style="list-style-type: none">・仮パスワードは、開始案内で通知された仮パスワードを入力します。 ※入力文字は画面上ではアスタリスク (*) で表示されます。 ※英文字の入力は大きく小文字が区別されます。 ※端末移行などで新端末に設定する場合は、旧端末で既にパスワード登録済ですので、開始案内で通知された仮パスワードではなく、設定済みの本パスワードを仮パスワードに入力します。
本パスワード	<ul style="list-style-type: none">・本パスワードは、任意の入力により指定を行います。 ※入力文字は画面上ではアスタリスク (*) で表示されます。 ※英文字の入力は大きく小文字が区別されます。
プロセス固有情報	<ul style="list-style-type: none">・プロセス固有情報は、パスワード設定画面上の [選択] ボタンの押下により表示されるファイル選択画面から、プロセス固有情報ファイルの選択を行います。 ※入力文字は画面上ではアスタリスク (*) で表示されます。

2. 画面を終了したい時

- ・パスワード設定画面を終了したい場合は、マウスでパスワード設定画面上の [閉じる] ボタンをクリックにより終了を行います。

※ユーザー登録で u-DIEX(汎用) 利用の登録が完了していても、パスワードを設定するまでは、u-DIEX(汎用)の機能を使用することはできません。使用前に必ずパスワード設定を行ってください。

3. 1. 3 振分け情報受信



【機能概要】

- ・u-DIEX(汎用)より振分け情報を受信し、受信した振分け情報を振分けマスタに反映します。

【運用手順】

- ・①u-DIEX(汎用)にアップロードされている振分け情報を受信・反映します。

【操作説明】

- ・登録されているユーザーの振分け情報を u-DIEX(汎用)から受信します。

1. 受信

- ・現在登録されているユーザーの振分け情報を受信する場合は、振分け情報受信画面上の [受信] ボタンをマウスでクリックにより、振分け情報を受信します。

※システムに登録されている全ユーザーの振分け情報を一度に受信します。

※受信した振分け情報はシステム内部に保管されます。

次回受信時に内容の変更がない場合は、u-DIEX(汎用)から受信せず、システム内部に保管されているファイルを反映します。

2. 強制受信

- ・前回受信した情報を全て u-DIEX(汎用)から再受信する場合は、振分け情報受信画面上の [強制受信] ボタンをクリックにより、振分け情報を強制受信します。

※前回受信時から振分け情報の変更がない場合も u-DIEX(汎用) から情報を受信します。

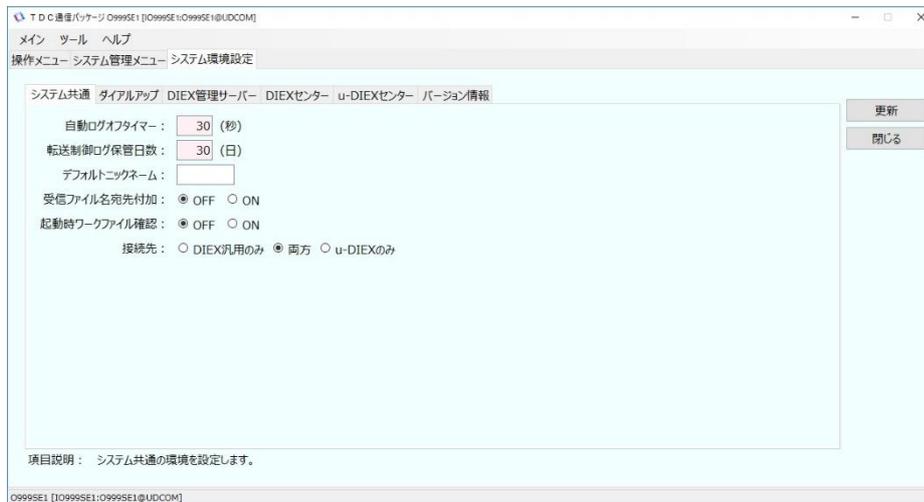
※通常の振分け情報受信では、[受信] を選択してください。

3. 画面を終了したい時

- ・振分け情報受信画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [閉じる] ボタンのクリックにより終了を行います。

3. 2 環境設定

3. 2. 1 システム環境設定



【機能概要】

- ・システム環境の設定を、システム共通・ダイアルアップ・DIEX 管理サーバー・DIEX センター・u-DIEX センターの項目に分けて設定を行います。
- ・初期表示は現在設定されている値 又は デフォルトの値が表示されます。

【運用手順】

- ①タブで指定した各項目の設定を行います。
- ②設定した値を環境ファイルに反映を行います。
- ③更新を行った場合、システムの再起動を行ってください。

※設定を変更した場合は必ずシステムの再起動を行って下さい。再起動を行わないまま使用するとトラブルの原因となります。

【操作説明】

- ・入力項目 及び 選択項目についての指定方法を説明します。

1. システム環境情報の更新

- ・システム環境設定画面の各設定タブにて設定値の入力後、画面上の [更新] ボタンのクリックにより、システム環境情報の変更を行います。

<設定項目>

《システム共通》



項目	説明
自動ログオフタイマー	<ul style="list-style-type: none"> ・処理要求が発生しない場合、DIEX(汎用)から自動的にログオフするまでの時間を設定します。 ※設定は、30～999 秒の間で行って下さい。
転送制御ログ保管日数	<ul style="list-style-type: none"> ・転送制御ログファイルの保管日数を設定します。 ※設定は、2～30 日の間で行って下さい。 1～99 日の範囲で設定は可能ですが、仕様上は最小 2 日、最大 30 日までとなります。
デフォルトニックネーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ニックネームで使用するデフォルト値を 4 文字で設定します。
受信ファイル名宛先付与	<ul style="list-style-type: none"> ・受信したファイル名に宛先を付加するか否かを設定します。 ※デフォルトは、OFF です。
起動時ワークファイル確認	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの起動時にシステムのワークファイルが残っているか確認する処理の実行を設定します。 ※ON に設定し、システムの起動時にワークファイルが残っていた場合、メッセージが表示され、システムは起動されません。 ※デフォルトは OFF です。
接続先	<ul style="list-style-type: none"> ・「DIEX 汎用のみ」「両方」「u-DIEX のみ」の中から使用するセンターと一致する項目を設定します。

《ダイアルアップ》

項目	説明
ダイアルアップ接続	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイアルアップ接続を使用「しない」又は「する」で設定を行います。 ※デフォルトは、「しない」です。 ※「する」を選択した場合に、以下の項目が表示されます。
ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイアルアップ接続で使用するユーザー名を設定します。 ※英文字の入力は、大文字と小文字が区別されます。
パスワード	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイアルアップ接続で使用するパスワードを設定します。 ※英文字の入力は、大文字と小文字が区別されます。
ダイアル接続名	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイアルアップ接続の接続設定ファイル名を設定します。
接続リトライ回数	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイアルアップ接続が失敗した時のリトライ回数を設定します。 ※設定は、1～9 回の間で行って下さい。
接続タイムアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイアルアップ接続のタイムアウト時間を設定します。 ※設定は、60～999 秒の間で行って下さい。

《DIEX 管理サーバー》

項目	説明
接続リトライ回数	<ul style="list-style-type: none"> DIEX(汎用)管理サーバーとの接続リトライ回数を設定します。 ※設定は、1～9 回の間で行って下さい。
接続タイムアウト	<ul style="list-style-type: none"> DIEX(汎用)管理サーバーとの接続タイムアウト時間を設定します。 ※設定は、30～999 秒の間で行って下さい。
管理サーバーアドレス (プライマリ)	<ul style="list-style-type: none"> DIEX(汎用)管理サーバー (プライマリ) のホスト名 又は IP アドレスを設定します。
管理サーバーアドレス (セカンダリ)	<ul style="list-style-type: none"> DIEX(汎用)管理サーバー (セカンダリ) のホスト名 又は IP アドレスを設定します。
管理サーバーポート No	<ul style="list-style-type: none"> DIEX(汎用)管理サーバーとの通信で使用するポート No を設定します。 ※現状は、15700 となります。

<管理サーバーアドレス値 (ホスト名) >

利用回線	管理サーバーアドレス	
	プライマリ	セカンダリ
イントラネット	tdcauth1.tns.ne.jp	tdcauth2.tns.ne.jp
JNX	tdcauth1.jnx.tns.ne.jp	tdcauth2.jnx.tns.ne.jp

《DIEX センター》

項目	説明
接続リトライ回数	<ul style="list-style-type: none"> •DIEX(汎用)センターとの接続リトライ回数を設定します。 ※設定は、1～9回の間で行って下さい。
接続タイムアウト	<ul style="list-style-type: none"> •DIEX(汎用)センターとの接続タイムアウト時間を設定します。 ※設定は、30～999秒の間で行って下さい。
ゲートウェイサーバー アドレス1～4	<ul style="list-style-type: none"> •現在、使用不可。
ゲートウェイサーバー ポートNo	<ul style="list-style-type: none"> •DIEX(汎用)センターとの通信で使用するポートNo を設定します。 ※現状は、21 となります。

《u-DIEX センター》

項目	説明
接続リトライ回数	<ul style="list-style-type: none"> ・u-DIEX(汎用)センターとの接続リトライ回数を設定します。 ※設定は、1 ～ 9 回の間で行って下さい。
接続タイムアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・u-DIEX(汎用)センターとの接続タイムアウト時間を設定します。 ※設定は、3 0 ～ 9 9 9 秒の間で行って下さい。
ゲートウェイサーバー アドレス	<ul style="list-style-type: none"> ・u-DIEX(汎用)センターのホスト名 又は IP アドレスを設定します。 ※現状のホスト名は、p-ftp.u-diex.jp となります。
ゲートウェイサーバーNo	<ul style="list-style-type: none"> ・u-DIEX(汎用)センターのポート No を設定します。 ※現状は、21 となります。
暗号化フラグ	<ul style="list-style-type: none"> ・u-DIEX(汎用)センターと通信する時に送受信するデータを暗号化するかどうかの設定を行います。 ※X は、暗号化に使用する定数 X の設定をします。 ※Y は、暗号化に使用する定数 Y の設定をします。 ※XM は、暗号化に使用する定数 XM の設定をします。 ※YM は、暗号化に使用する定数 YM の設定をします。 ※KM は、暗号化に使用する定数 KM の設定をします。 <p>※設定値は絶対に変更しないでください。</p>

《バージョン情報》

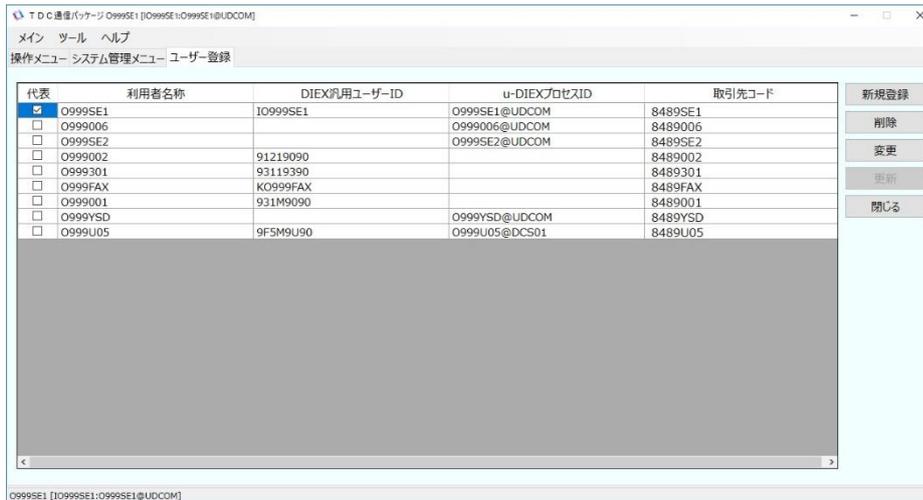


項目	説明
クライアント識別	32/64bit の表示をします。
バージョン	セットアップされているパッケージのバージョンを表示します。

2. 画面を終了したい時

- ・システム環境設定画面を終了したい場合は、マウスで画面上の「閉じる」ボタンのクリックにより終了を行います。

3. 2. 2 ユーザー登録



【機能概要】

- ・システムを使用するユーザーの新規登録・削除・変更・更新を行います。
- ・システム内で代表として使用されるユーザーの指定を行います。
- ・ユーザーの削除を行うことにより、関連するタイマー起動情報 及び 保管されているファイルの削除を行います。

【運用手順】

- ①ユーザー登録画面起動時にパスワードマスタの検索を行い、登録済みユーザーの一覧表示を行います。
- ②メンテナンス作業（新規登録・削除・変更）を行います。
- ③代表ユーザーの指定を行います。
- ④メンテナンス内容を、ユーザー情報として反映を行います。（更新）

※設定を変更した場合は必ずシステムの再起動を行って下さい、再起動を行わないまま使用するとトラブルの原因となります。

【操作説明】

- ・入力項目 及び 選択項目についての指定方法を説明します。

1. 一覧表示

- ・画面の起動時に、登録済みのユーザー情報をパスワードマスタより一覧表示を行います。
※代表ユーザーは代表列のチェックが ON になります。

2. 新規登録

- ・新規にユーザーを登録する場合は、マウスでユーザー登録画面上の [新規登録] ボタンのクリックにより表示されるユーザー登録画面で登録を行います。
- ・新規登録ユーザーの設定完了後、マウスでユーザー登録画面上の [登録] ボタンのクリックにより、親画面（ユーザー登録画面）上の一覧表示の最終行に登録されたデータが追加されます。

<設定項目>

《共通》



項目	説明
利用者名称	・1～16 文字で設定を行います。 ※英文字の入力は、大文字と小文字が区別されますが、大文字と小文字が異なるのみの名称などシステム管理上紛らわしい設定はしないで下さい。
取引先コード	・登録するユーザー自身の取引先コードを1～8文字で設定を行います。

《DIEX 汎用》

項目	説明
「DIEX 汎用を利用する」	・DIEX(汎用)を利用するユーザーを設定する場合に、チェックボックスをチェックします。チェックされると、各設定項目が入力可能となります。
「管理サーバー経由」	・管理サーバーを経由して DIEX(汎用)を利用する場合に選択します。 ※選択されると「管理サーバーログオンユーザー ID」「管理サーバーログオンパスワード」「リトライ回数」が入力可能になります。
管理サーバー ログオンユーザー ID	・1～10 文字の半角英数字で設定を行います。 ※英文字の入力は大きく小文字が区別されます。
管理サーバー ログオンパスワード	・1～8 文字の半角英数字で設定を行います。 ※英文字の入力は大きく小文字が区別されます。
リトライ回数	・通信処理エラーの場合に繰り返しを行う回数を 1～9 回の範囲で設定を行います。
「管理サーバー経由 しない」	・現在、使用不可。
状況確認タイマー 起動時間	・状況確認データの受信処理を行う時刻の設定を行います。

《u-DIEX》

項目	説明
「u-DIEX を利用する」	・u-DIEX(汎用)を利用するユーザーを設定する場合に、チェックボックスをチェックします。チェックされると、各設定項目が入力可能となります。
プロセスID	・プロセスID を設定します。
受信パス	・u-DIEX(汎用)上での受信フォルダのパスを設定します。

3. 削除

- ・登録済みのユーザーを削除する場合は、マウスでユーザー登録画面上の [削除] ボタンのクリックにより削除を行います。
- ・削除する前に削除されるユーザーのパスワードを入力する画面（パスワード入力画面）が表示されます。管理サーバー（DIEX(汎用)ユーザー）または u-DIEX(汎用)ユーザーで登録されているパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックして下さい。（削除取り消しの場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして下さい。）

- ・パスワード入力画面で正しいパスワードが入力された後、削除を確認するメッセージボックスが表示され、対象となるユーザーIDを表示して確認を行います。[はい] を選択した場合は画面より削除を行い、[いいえ] を選択した場合は、削除のキャンセルとなります。

4. 変更

- ・既に登録されているユーザーの情報を変更する場合は、マウスでユーザー登録画面上の [変更] ボタンのクリックにより、登録済の DIEX(汎用)管理サーバーまたは u-DIEX(汎用) へのログオンパスワードを入力後、表示されるユーザー登録画面で変更を行います。
- ・設定項目は、**2. 新規登録**の場合と同様に設定を行いますが、共通画面の利用者名称と u-DIEX 画面のプロセス ID は変更不可となります。

5. 代表ユーザー指定

- ・システム内で代表となるユーザーの指定を行います。指定の方法は、一覧表示されているユーザーの代表列にあるチェックボックスをマウスでクリックする事で指定を行います。
チェックボックスが ON になっているデータが代表ユーザーとなります。

※メンテナンス内容が代表ユーザーの変更のみでも、更新処理による反映が必要です。

6. 更新

- ・メンテナンスを行った内容をパスワードマスタに反映する場合は、マウスでユーザー登録画面の [更新] ボタンのクリックにより反映を行います。

※メンテナンス作業（新規登録・削除・変更・代表ユーザー変更）が行われていない時は、更新は行えません。

※更新が行われた時点で、削除されたユーザーの情報がシステム内より全て削除されます。
削除したくない場合は、更新処理を行わずに画面を終了して下さい。

7. 画面を終了したい時

- ・ユーザー登録画面を終了したい場合は、マウスで画面上の [閉じる] ボタンのクリックにより終了を行います。
- ・メンテナンス作業が行われている場合は、メッセージボックスにてメンテナンス内容を破棄して良いか確認を行います。
[はい] を選択した場合は破棄され、[いいえ] を選択した場合は画面終了のキャンセルとます。

4. ツール

4. 1 バックアップ・リストアツール



【機能概要】

- ・TDC 通信パッケージのマスタ情報、ログ情報などのバックアップを行います。
また、以前バックアップしたファイルからマスタ情報、ログ情報などをリストアします。

※サービス起動でシステム稼働中（サービス起動・ローカル起動）の場合、バックアップ・リストアを行うには、システム停止が必要となります。
システムが停止していない場合、以下のエラーが表示されます。



【運用手順】

- ①システム稼働中であれば、[システム停止](#)を行います。
- ② [ツール] - [バックアップ・リストア] にてバックアップ・リストアツールを起動します。
- ④ バックアップ、または、リストアを行います。
- ⑤ 画面を終了する場合は、[閉じる] を押下します。

【操作説明】

- ・入力項目、および選択項目についての指定方法を説明します。

1. バックアップを行う

バックアップの対象情報の選択と作成するバックアップファイル名を指定して、[バックアップ] を押下します。

A)マスタ情報、ログ情報、ローカル保管ファイル、プログラムから対象情報を選択します。(複数選択可)

<設定項目>

項目	説明
マスタ情報	・ユーザー登録情報、メッセージマスタ、アドレス帳マスタ、スケジュールマスタ、振分けマスタ、システム環境設定などをバックアップの対象にする場合にチェックします。 ・デフォルトでチェック済みになっていますので、取らない場合は外します。
ログ情報	・ログ情報をバックアップの対象にする場合にチェックします。 ・デフォルトでチェック済みになっていますので、取らない場合は外します。
ローカル保管ファイル	・TDC 通信パッケージ内部に一定期間保管している受信ファイル、送信ファイルをバックアップの対象にする場合にチェックします。 ※授受回数・量が多い環境では、バックアップファイルのサイズが大きくなる場合があります。
プログラム	・TDC 通信パッケージのプログラム及びプログラム実行に 関係する環境データをバックアップの対象にする場合にチェックします。 ※バックアップファイルのサイズが 5MB 強となります。

※バックアップファイルからリストアする場合、バックアップ時に処理対象とした情報の中からリストアする対象を選択します。バックアップしていない情報を選択してリストアはできません。

B)バックアップファイル名 (フルパス) を入力します。

<設定項目>

項目	説明
ファイル名	・デフォルトで、現在日時より命名したバックアップファイル名が表示されます。 ・デフォルトのバックアップファイル出力先は、以下となります。 "C:¥EDI¥Backup¥" ・デフォルト表示とは違うバックアップファイル名にする場合は、フルパスでファイル名を入力します。

※同じファイル名のファイルが既に存在する場合は、[バックアップ] 押下時にエラーとなります。

※ [参照] 押下で、ファイルを選択する画面が表示されます。(画面イメージは、リストアの手順参照) 尚、ファイルを選択入力することも可能ですが、ファイル名は変更する必要があります。

C) [バックアップ] を押下します。

正常にバックアップが取れた場合は、指定した場所に指定したファイル名で zip 圧縮されたファイルが作成され、「バックアップ処理が正常に終了しました。」が表示されます。

2. リストアを行う

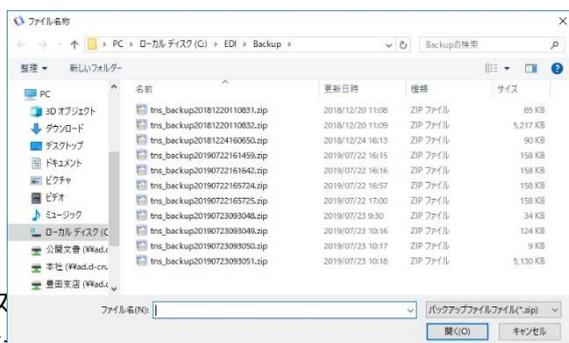
リストアするバックアップファイル名を指定して、復元する対象情報を選択し、[リストア] を押下します。

A) リストアするバックアップファイル名（フルパス）を指定します。

<設定項目>

項目	説明
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> ・デフォルトのバックアップファイルの保管先は、以下となります。 “C:¥EDI¥Backup¥” ・ [参照] でのファイル選択、もしくは、フルパスでファイル名を入力します。

※ [参照] 押下で、以下の画面が表示されます。リストア対象のバックアップファイルを選択します。



B) マスタ情報から処理対象とする情報を選択します。

<設定項目>

項目	説明
マスタ情報	<ul style="list-style-type: none"> ・バックアップファイルからユーザー登録情報、メッセージマスタ、アドレス帳マスタ、スケジュールマスタ、振分けマスタ、システム環境設定などをリストアする場合にチェックします。 ・デフォルトでチェック済みになっていますので、復元しない場合は外します。
ログ情報	<ul style="list-style-type: none"> ・バックアップファイルからログ情報をリストアする場合にチェックします。 ・デフォルトでチェック済みになっていますので、復元しない場合は外します。
ローカル保管ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ・バックアップファイルから受信ファイル、送信ファイルをリストアする場合にチェックします。
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・リストアはできません。チェックした場合は、外してください。

※対象のバックアップファイルに含まれている処理対象とした情報の中からリストアする対象を選択します。
バックアップしていない情報をチェックして [リストア] 押下した場合は、
「バックアップされていないデータをリストアしようとした。」が表示されます。

※プログラムをチェックして [リストア] 押下した場合は、
「プログラムを指定してのリストアは出来ません。チェックを外してください。」が表示されます。

※TDC 通信パッケージの各種プログラムは、基本的にインストールにて導入します。
従いまして、バックアップファイルからリストアすることは基本的にありません。

C) [リストア] を押下します。

正常にリストアが完了した場合は、「リストア処理が正常に終了しました。」が表示されます。

3. バックアップ・リストアツールを終了する

[閉じる] を押下します。

4. 2 設定情報取得ツール



【機能概要】

- ・TDC 通信パッケージの調査用の情報を取得します。

※TDC 通信パッケージでエラーが発生し、弊社カスタマーセンターにお問合せを頂いた際に、本機能を使用して情報を取得頂く案内をさせていただくことがあります。詳細は、弊社カスタマーセンターからの案内の際に説明がありますので、その内容に従ってご対応頂けます様、お願いいたします。

※取得した調査情報ファイル（zip ファイル）は、依頼元（通常は、弊社カスタマーセンター）にメールなどの方法でご送付ください。

※調査の為に、調査情報ファイルの他に、タスクマネージャーの画面コピー、OS の情報などを合わせて取得頂くこともあります。ご了承ください。

【運用手順】

- ①システム稼働中であれば、[システム停止](#)を行います。
- ② [ツール] - [設定情報取得ツール] にて設定情報取得ツールを起動します。
- ③情報の取得を行います。
- ④画面を終了する場合は、[閉じる] を押下します。
- ⑤取得した情報を依頼先に送付します。

【操作説明】

- ・入力項目、および選択項目についての指定方法を説明します。

1. 調査用情報を取得する

対象情報の選択と作成する調査情報ファイル名（zip ファイル）を指定して、[取得] を押下します。

A) ローカル保管ファイル、プログラムの情報を追加で取得するか選択します。（複数選択可）

<設定項目>

項目	説明
ローカル保管ファイル	・TDC 通信パッケージ内部に一定期間保管している受信ファイル、送信ファイルを追加で取得する場合にチェックします。 ※授受回数・量が多い環境では、調査情報ファイルのサイズが大きくなる場合があります。
プログラム	・TDC 通信パッケージのプログラム及びプログラム実行に関係する環境データを追加で取得にする場合にチェックします。 ※調査情報ファイルのサイズが 5MB 強となります。

※調査に必須の情報（マスタ情報、ログ情報）はチェック不要で取得します。

※依頼者から追加で取得する指示があった場合にチェック頂きます。指示が無い限りはチェック不要です。

B) 調査情報ファイル名（フルパス）を入力します。

<設定項目>

項目	説明
ファイル名	・デフォルトで、現在日時より命名したファイル名が表示されます。 ・デフォルトのファイル出力先は、以下となります。 “C:¥EDI¥Backup¥” ・デフォルト表示とは違うファイル名にする場合は、フルパスでファイル名を入力します。

※同じファイル名のファイルが既に存在する場合は、[取得] 押下時にエラーとなります。

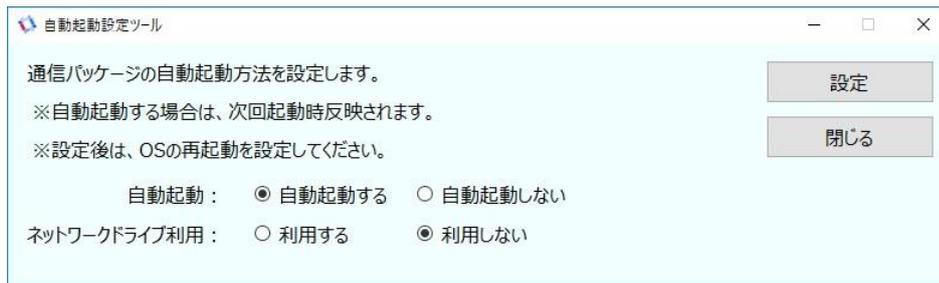
C) [取得] を押下します。

正常に取得できた場合は、指定した場所に指定したファイル名で zip 圧縮されたファイルが作成され、「設定情報の取得が正常に終了しました。」が表示されます。

2. 設定情報取得ツールを終了する

[閉じる] を押下します。

4. 3 自動起動設定ツール



【機能概要】

・TDC 通信パッケージの自動起動設定を変更します。

※TDC 通信パッケージのシステム起動中は、自動起動設定を変更することができません。起動中に画面を開いた場合は、以下のメッセージが表示されます。システム停止を行ってから設定変更を行います。

「通信パッケージが起動しています。停止してから実行してください。」

※設定変更後は、OS の再起動を行う必要があります。

※Ver1.1.1 から追加された機能です。

【運用手順】

- ①システム稼働中であれば、[システム停止](#)を行います。
- ② [ツール] - [自動起動設定ツール] にて自動起動設定ツールを起動します。
- ③現在の設定内容にて表示されます。
- ④設定を変更し、[設定] を押下します。 ※ [設定] を押下しないと設定は保存されません。
- ⑤画面を終了する場合は、[閉じる] を押下します。

【操作説明】

・入力項目、および選択項目についての指定方法を説明します。

1. 自動起動設定を変更する

自動起動とネットワークドライブ利用の指定を行い、[設定] を押下します。

A)条件を選択入力します。

<設定項目>

項目	説明
自動起動	・端末の起動に合わせて TDC 通信パッケージを自動的にシステム起動する場合は、『自動起動する』を選択します。 自動起動させない場合は、『自動起動しない』を選択します。 ※自動起動させない場合は、システム起動・停止画面より起動する必要があります。
ネットワークドライブ利用	・送受信ファイルの格納先にネットワークドライブを利用する環境の場合は、『利用する』を選択します。利用しない環境の場合は、『利用しない』を選択します。 ※ネットワークドライブを利用する場合は一部のデータの授受のみであっても、利用する場合は『利用する』を選択してください。

※画面表示直後の選択状態は、現在設定されている内容です。

B) [設定] を押下します。

正常に設定できた場合は、「自動移動設定が正常に終了しました。」が表示されます。

2. 自動起動設定ツールを終了する

[閉じる] を押下します。

5. 補足

5.1 受信ファイル命名規則

- ・受信ファイル名は、命名規則に沿って通信パッケージにて付与されます。
- ・ファイル形式によって命名規則は異なります。

【TNS 標準形式（TNS 形式）】

①ファイル統合＝“しない” で受信した場合

命名規則：「FFF.YYMMDDSEQ.TTTTT.EXT」

文字列	意味
FFF	ヘッダーレコード内に記載されているファイルコード
YYMMDD	ヘッダーレコード内に記載されている作成日付
SEQ	ヘッダーレコード内に記載されている作成日付シーケンス No.
TTTTT	ヘッダーレコード内に記載されている発信元取引先コード
EXT	メッセージマスタに登録されているファイルタイプ拡張子

②ファイル統合＝“する” & 発信元を指定して受信した場合

命名規則：「MMMMMMMM.YYYYMMDDSEQ.UUUUU.EXT」

文字列	意味
MMMMMMMM	受信画面や API で指定したメッセージ識別子
YYYYMMDD	システム日付
SEQ	メッセージ識別子ごとの当日受信ファイルのカウンタ数（000～999） ※カウンタ数は、通信パッケージが管理。
UUUUU	受信画面や API で指定した発信元
EXT	メッセージマスタに登録されているファイルタイプ拡張子

③ファイル統合＝“する” で受信した場合

命名規則：「MMMMMMMM.YYYYMMDDSEQ.EXT」

文字列	意味
MMMMMMMM	受信画面や API で指定したメッセージ識別子
YYYYMMDD	システム日付
SEQ	メッセージ識別子ごとの当日受信ファイルのカウンタ数（000～999） ※カウンタ数は、通信パッケージが管理。
EXT	メッセージマスタに登録されているファイルタイプ拡張子

【TNS 拡張形式】

①ファイル統合＝“しない” で受信した場合

命名規則：「FFFGGGGG.SSYYMMDDNNSEQ.TTTTTUUU.EXT」

文字列	意味
FFF	ヘッダーレコード内に記載されているファイルコード
GGGGG	ヘッダーレコード内に記載されているファイル詳細コード
SS	ヘッダーレコード内に記載されている作成日付世紀
YYMMDD	ヘッダーレコード内に記載されている作成日付
NN	ヘッダーレコード内に記載されている作成日付シーケンス No.拡張
SEQ	ヘッダーレコード内に記載されている作成日付シーケンス No.
TTTTT	ヘッダーレコード内に記載されている発信元取引先コード
UUU	ヘッダーレコード内に記載されている発信元取引先コードサブアドレス
EXT	メッセージマスタに登録されているファイルタイプ拡張子

②ファイル統合＝“する” & 発信元を指定して受信した場合

命名規則：「MMMMMMMM.YYYYMMDDSEQ.UUUUU.EXT」

文字列	意味
MMMMMMMM	受信画面や API で指定したメッセージ識別子
YYYMMDD	システム日付
SEQ	メッセージ識別子ごとの当日受信ファイルのカウンタ数（000～999） ※カウンタ数は、通信パッケージが管理。
UUUUU	受信画面や API で指定した発信元
EXT	メッセージマスタに登録されているファイルタイプ拡張子

③ファイル統合＝“する” で受信した場合

命名規則：「MMMMMMMM.YYYYMMDDSEQ.EXT」

文字列	意味
MMMMMMMM	受信画面や API で指定したメッセージ識別子
YYYMMDD	システム日付
SEQ	メッセージ識別子ごとの当日受信ファイルのカウンタ数（000～999） ※カウンタ数は、通信パッケージが管理。
EXT	メッセージマスタに登録されているファイルタイプ拡張子

【自由形式】 ※TDC 標準形式（標準形式）も同様の命名規則です。

①発信元を指定して受信した場合

命名規則：「MMMMMMMM.YYYYMMDDSEQ.UUUUU.EXT」

文字列	意味
MMMMMMMM	メッセージ識別子
YYYMMDD	システム日付
SEQ	メッセージ識別子ごとの当日受信ファイルのカウンタ数（000~999） ※カウンタ数は、通信パッケージが管理。
UUUUU	受信画面や API で指定した発信元
EXT	メッセージマスタに登録されているファイルタイプ拡張子

②発信元を指定せずに受信した場合

命名規則：「MMMMMMMM.YYYYMMDDSEQ.EXT」

文字列	意味
MMMMMMMM	メッセージ識別子
YYYMMDD	システム日付
SEQ	メッセージ識別子ごとの当日受信ファイルのカウンタ数（000~999） ※カウンタ数は、通信パッケージが管理。
EXT	メッセージマスタに登録されているファイルタイプ拡張子

※注意

TNS 標準形式（TNS 形式）、TNS 拡張形式のファイルをファイル統合して受信する場合に限り、任意のファイル名を付けて受信することも可能です。

5. 2 アプリケーションフォーマット

・各アプリケーションフォーマットのレイアウトは、以下に公開されています。

■ QA サイトを表示機能から参照。

- 1) QA サイトを表示 ※「4. 3 QA サイトを表示」を参照
- 2) 「TDC 通信パッケージとは」のリンクをクリック
- 3) 「TNS フォーマットについてはこちら」のリンクをクリック
- 4) アプリケーションフォーマットのレイアウト説明ページが表示されます。

■ アプリケーションフォーマットのレイアウト説明ページに直接アクセスして参照

https://www.toyotasystems.com/service/edi/u-diex/doc/pkg-qa/tns_format.html